

第5回 文京区保育ビジョン策定検討委員会 次第

平成18年11月28日(火) 19時～21時

於：シビックセンター2103・2104会議室

1. 開会あいさつ
2. 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告 中間のまとめ骨子（案）
について【資料12】
3. 文京区保育ビジョン策定検討委員会報告 中間のまとめに向けた
議論の整理について【資料13】
4. その他

配布資料一覧

- (1)文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめ骨子（案）【資料第12号】
- (2)文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめに向けた議論の整理
【資料第13号】
- (3)文京区保育ビジョン策定検討委員会ワーキング議事要旨【資料第14号】
- (4)子育てしやすいまちアンケート 自由意見【資料第15号】

文京区保育ビジョン策定検討委員会報告 中間のまとめ骨子（案）

はじめに ―― 保育ビジョンの基本的な考え方

子どもは未来の希望です。その子どもたちを豊かに育むまちはまた、だれもが希望をもって生活できるまちでもあります。しかし、私たちを取り巻く現実には厳しいものとなってきています。私たちの希望であるはずの子どもたちは、今、子ども同士や異年齢との交流、社会性を身につける機会が減少し、かつてよりも社会の一員として育ちにくい環境の中で、児童虐待や様々な問題の被害者として、心身ともに傷ついてもいます。また、**豊かな人間関係を体験できないまま、いじめや犯罪の加害者となる子どもたちもいます**。一方、今の親の暮らしからは、子どもを育むことに喜びを見いだす余裕も失われかねない状況です。経済的、社会的に厳しい状況に直面する親たち、子育てと就労との両立で疲れている親たち、育児の大半を一人で担い、心身の負担に苦しむ親たちもいます。

この現実に対し、子育て力・教育力の低下として親個人や家庭内部の問題にとどめるのではなく、これまで以上に、子どもを生み育てることを社会がもっと評価し、次代を担う子どもたちや親の子育てを社会全体で支援することを速やかに、そして、強力に推進していかなければなりません。

そこで、今、求められるのは、これまで以上に、子どもたちを豊かに育むまちなありようを大胆に描き、その未来像に向けて一歩でも踏み出すことです。また、そこにおいては、いたずらに効率を追い求めることや画一的な家族像、ライフスタイルを強調することであってもならないと考えます。

その認識に立って、私たち文京区保育ビジョン策定検討委員会は、「文の京」にふさわしい子どもを豊かに育むまちなありようを提示することとしました。ビジョンにおいては、思春期へと至るまでの重要なステップである就学前の子どもたちに焦点をあわせ、なおかつ、「保育」を子どもの心身の豊かな育ちを保障する上での様々な機能にとらえ、その具体的な方策をまとめています。

私たち文京区保育ビジョン策定検討委員会はこれら具体的な方策を一日でも早く実現し、全国に先駆けて、子どもたちの豊かな成長と子育て家庭の暮らしを保障する「子どもを最優先するまち」づくりを、区民、地域、企業、行政がそれぞれの責務を果たし、ともに協働することにより達成することを切に願い、ここに区長に答申するものです。

第1章 保育ビジョン策定にあたって

1 保育ビジョン作成の背景

(1) 文京区における子ども・子育て関連施策の実施経過

文京区では、平成15年の少子化対策の総合的な取り組みを推進するため、「次世代育成支援対策推進法」が制定されたことを受け、地域福祉計画の中の子育て施策を子育て支援計画と位置づけてきました。さらに、平成16年度に、子育てに係る施策を総合・包括・拡充した「子育て支援計画（次世代育成支援行動計画）」を改定し、地域における子育て支援の取り組みを進めてきています。

しかしながら社会環境の変化のスピードは速く、文京区ならではの施策を十分に実施するまでに至っていないのも現実です。

一方、国においても、少子化の背景にあるさまざまな要因についての分析、それに基づく対策に関する議論がなされると共に、少子化に歯止めをかけるべく、さまざまな施策が実施されてきて

います。こうした国の制度も年度によって大きく変化しています。

(2) 子育てを負担に感じる人の増加

平成16年3月の「文京区子育て支援に関するアンケート調査」では、子育ての不安や悩みを持つ人が多いことがわかりました。

就学前児童の保護者では、「自分の時間がとれず、自由がない」、「子どもの健康、性格や癖などについて心配である」、「子育ては親の責任といわれ、不安と負担を感じる」、「近所に子どもの遊び友達がいない」などが多くあげられています。こうした子育てへの不安や負担の軽減を図ることが求められています。

(3) 就労支援の充実の必要性

働きながら子育てをする人たちが増えてきています。働き方の多様化に伴い、「延長保育のスポット利用」、「認証保育所の増設」、「病後児保育」などの充実を望む人が増えていきます。

今後とも、保護者の就労を支援しながら子育てを支えていくことが必要となっています。

(4) 多様な家族支援が必要となってきた

近年、児童虐待に関する談件数が増えています。また、重度の障害だけでなく、軽度発達障害の子ども一人ひとりの課題を把握した個別の支援の充実、さらには、外国籍を持つ子どもたちへの支援などの充実が求められています。

2 文京区保育ビジョンにおける保育とは

思春期へと至るまでの重要なステップである就学前の子どもたちに焦点をあわせ、なおかつ、「保育」を子どもの心身の豊かな育ちを保障する上での様々な機能ととらえその機能を強化することを、文京区の保育ビジョンとします。

3 保育ビジョンの位置づけ

就学前の子どもに係る分野の基本理念・基本目標を示し、文京区地域福祉計画（「文の京」ハートフルプラン）及び文京区子育て支援計画（文京区次世代育成支援行動計画）の検討指針とします。

4 文京区の保育がめざす将来像 **【グループ検討で出されたものをまとめます】**

(1) 子どもたちの豊かな成長と子育て家庭の暮らしを保障するまち

(2) めざす将来像を実現するための方向性 ①子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児期の保障

②子育て・親育ちの支援

③親の就労・多様な生き方の支援

④保育機能の中核としての保育所

5 保育ビジョン実現の推進に向けて

【各グループ検討で出された案を参考に盛り込みます】

文京区保育ビジョン策定検討委員会報告中間のまとめに向けた議論の整理

第1グループ（子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児の保障）

【スローガン】子どもたちの「食・遊・眠・ふれあい」を見つめ直そう！

＊子どもたちに、のぞましい基本的生活習慣の保障を！

- ・ 自然で安全な「食事」、身体と五感を使ったゆたかな「遊び」、十分な「眠り」
- ・ 早寝・早起き→朝食→遊び→早寝・早起きの「生活のリズム」の確立
(理由：以上のことは、子どもの心身の健やかな成長にとって不可欠な要素)

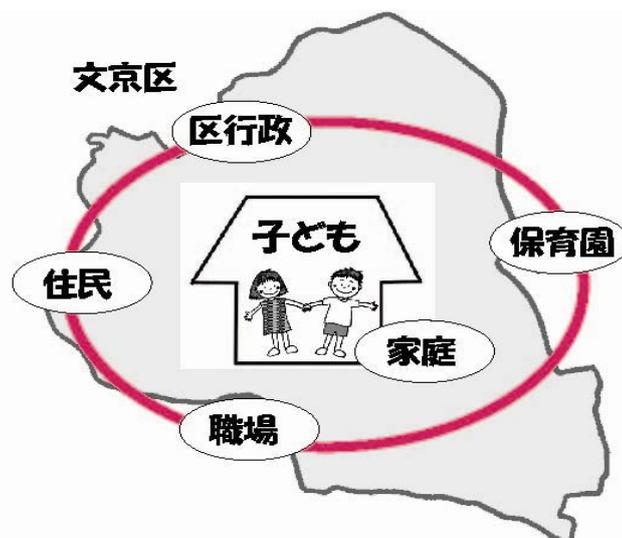
＊子どもたちに、ゆたかな人間的ふれあいの保障を！

- ・ 自分を好きと思える心の土台作りをするために、ゆたかなふれあいを通じた、大人に対する基本的な「信頼」（自分は受け入れられているという感覚）の確立（理由：これがあってはじめて、「しつけ」や「教育」も意味をもつ。）
- ・ 同年齢・異年齢の友だちとふれあう機会の確保（理由：これを通じてはじめて、友だちどうしのあいだに、思いやり、信じあう関係が芽生える。）

【区全体での取り組み】

「子どもの育ち」に関する定期的な実態調査と、それを踏まえた議論の場の設定を！

- ・ 文京区内の子育てに直接間接に関わる主体（区行政、家庭、保育園、幼稚園、職場、地域住民など）が、絶えず（今回限りでなく）、「子どもの育ち」に対するそれぞれの責任を自覚し、協力しあっていく必要がある。
- ・ そのために、①今回限りではなく、定期的に（できれば3年くらいごとに）、「子どもの育ち」や「子どもの生活習慣・生活環境」に関する実態調査を実施し、その現状を把握すること、そして、②その都度、問題の解決にむけて、各主体が対策について話し合う場を設定すること、を提案する。
- ・ なおこれと併せて、「子育て支援策」についての実態調査と議論などが行われることが望まれる。→WG2
- ・ また、この実態調査と議論が、小中学生をも対象に含めたものになることが望まれる（「子どもの育ち」をより長期的な視点から考えるために）。



子どもたちの「食・遊・眠・ふれあい」を見つめ直そう！

【各主体の取り組み】

① 区行政：長期的かつ公共的な視点から、「子どもの育ちの場」の環境整備を！

(ア) 禁煙条例の制定を！

(理由：受動喫煙の危険性は明らか。子どもたちを受動喫煙の害から守るために必要。千代田区の例を参考。)

(イ) 遊びとふれあいの場の確保・拡充を！

- ・公園の整備：観光のためではなく、子どもが楽しく遊べる場として。
- ・図書館での絵本の読み聞かせ：親たちが子どもたちに読み聞かせられるスペース・時間（特に、平日の幼稚園降園後の時間や土日）の確保。
- ・歩行者天国の実施（例えば、播磨坂などから始める）：子どもたちが集える場の拡大。
(理由：とくに未就園児や幼稚園児は家庭で過ごす時間が長い。家の中での長時間にわたる電子メディア視聴は、子どもの健やかな育ちを妨げる大きな要因となる。外に出て、身体と五感を使って遊び、良質の絵本を大人に読んでもらい、多様なふれあいを獲得する機会はとても重要。)

(ウ) 現行の区立保育園が担う公共的機能を認識し、区立保育園の維持・拡大を！

(理由：現行の区立保育園は、子どもたちに、望ましい基本的な生活習慣や、豊かなふれあいを保障する重要な場となっており、その意味で高度な「公共的機能」を担っている→③(ア)参照。この文京区の「財産」である質の高い区立保育園を、維持・拡大していくべきである。また、区立園と同等の「公共的任務」を果たす私立園や認証園への補助の拡大も重要である。)
→なお、この目的との関連で、高額所得者の保育料負担の引き上げを検討することも必要である。この「累進性の強化」は、「格差社会」を是正するための一助ともなろう。

(エ) 子どもの健やかで安全な育ちを守るための、保護者・地域住民への啓蒙を（長時間にわたる電子メディア視聴の危険性についての情報提供など）！（理由：長時間にわたる電子メディア視聴は、生活リズムの乱れ（夜更かし）、運動不足、双方向のコミュニケーションの阻害、言葉の発達の遅れ、をもたらす。自治体による啓蒙活動により、この問題の改善に効果が現れている例あり。例えば、茨城県東海村・鳥取県三朝町・島根県雲南市久野地区の「ノー・テレビ・デイ（ウィーク）」などが、子どもの「電子メディア漬け」生活の改善に効果を上げている。)

(オ) 特に配慮の必要な家庭への積極的支援を！→WG2

(カ) 子どもの安全を視野に入れた街づくりを！

- ・歩道のバリアフリー化、電柱の地中化、ポーンエルフ・スネーク道路などの設置（理由：子どもの交通の安全のために）
- ・高層建築規制などを中心とした都市計画（理由：強いビル風などの危険から子どもを守るため）

② 家庭：子どもにとっての第一の社会であるという自覚の下に、子どもの育ちにとって望ましい家庭環境を！

(ア) 家事・育児負担の夫婦間の偏りの是正し、子どもと父親とのふれあいの確保を！

(理由：母親の密室育児が母親の孤立感、負担感を高めている。協力できるもっとも身近な存在としての父親の役割の重要性を訴えるべきである。)

(イ) 大人のリズムに合わせるのではなく、子どもの基本的な生活リズムの見直しを！

(理由：子どもが遅寝になっている原因として、大人と一緒にテレビを見てしまう、父親の遅い帰宅を寝ないで待つなど、大人のリズムに合わせていることがある)

(ウ) 子どもとのふれあいの時間の確保を！これ以上の「延長保育」を保育園に求めるのではなく、自らの働き方（サービス残業などを含む長時間労働）の見直しを！

(エ) 子どもの食生活の見直しを！→③(イ)⑤(ア)などの機会も利用

(理由：「食育」は子育ての基本。食べ物が子どもの身体を作る。)

(オ) 動物とのふれあいも！（理由：自分が「世話をする」＝「与える」ことを子どもが学ぶために）

③保育園：子どもが育ち、育ちあうとても貴重な場。現在の高度な機能と質の維持を！さらに地域への発信、次世代への継承を！（→WG4）

(ア) 現在担っている高度な「公共的機能」の維持を！

- ・基本的な生活習慣の保障（生活リズムの維持・ゆたかな遊び・電子メディアからの解放）
- ・先生や友だちとの、安心できるゆたかな「ふれあい」の場の保障
- ・母乳保育を含む、安全で自然な「食事」の提供（3歳児クラスに上がるまでは、おやつや補食に、既製品のお菓子類を利用しないのが望ましい。）
- ・知育に偏ることのない、生活に根ざした保育園ならではの育みの提供
- ・伝統的な遊びや行事の継承
- ・散歩などを通じた地域を知る機会の提供

(イ) 地域への還元・地域との連携を！

- ・子育て、離乳食作りなどのノウハウの地域への積極的還元
- ・小中学生などとの交流（異年齢間のふれあいの促進）

(ウ) 高い「保育の質」の次世代への継承を！そのために、年齢の偏りのない人員配置を！

④職場：子どもの育ちを考えた労働環境の整備を！

(ア) 労働時間の短縮（サービス残業の見直し・ワークシェアリングなど）を！

（理由：労働環境の改善なくして、家庭環境の改善はありえない。職場にも子どもの育ちを考えた環境整備が必要。）

(イ) 病児のための看護休暇の充実を！

（理由：子どもを持ちながら働き続ける親にとって、大きな不安材料が、子どもの病気。このことは、父母連が実施したアンケートの結果にもよく現れており、回答者の約3割がそう記述している。）

→なお、この関連で、「病後児保育の充実」をWG2で盛り込んでほしい。

(ウ) 搾乳・昼休みの授乳の容認を！

（理由：母乳が乳児にとって重要な役割を持っていることは、科学的にも明らか。職場の雰囲気によって母乳育児をあきらめてしまう母親がいるとしたら、それは憂うべきことである。）

⑤地域住民：子どもを育てる地域の一員としてできることから！

(ア) 「子育て情報誌」の発行により情報交換の機会を！：子どもの参加できる行事、子どものふれあいの場、子育て支援、離乳食作り・料理講座など、「子育て」に関する様々な情報をまとめた情報誌の発行。区に財政的支援をしてもらうことも検討。（理由：現状では、情報の流通が極めて不十分）

(イ) 挨拶・注意など子どもたちへの声かけを！

（理由：子どもたちが地域とふれあい、地域によって育てられていると実感できる第一歩。）

(ウ) 路上禁煙の実行を！

（理由：上記のとおり、受動喫煙の危険性はあきらか。条例ができて、地域住民が自覚しないと改善はない。）

(エ) 自動車・自転車の運転マナーの改善を！

（理由：子ども連れの親子の外出にとって、自動車や、歩道を猛進する自転車は不安材料のひとつ。ちょっとした気遣いで改めることのできる簡単な協力の例として。）

(オ) お寺の、子どもたちのふれあいの場としての活用を！

（理由：お寺の多さは文京区の特徴。子どもたちのふれあいの場としての活用を）

*注：なお、区立保育園保育士の先生方を対象として行われたアンケート調査（子どもたちの日ごろの様子・生活習慣・生活環境や、保育園のあり方に関するもの）については、現在集約中で、これから分析に入る。その結果については、文京区保育ビジョンに関する最終的な答申に反映させることとなる。

第2グループ（子育て・親育ちの支援）

1 短期的ビジョン(今すぐにも対応が必要な課題)

A [専門的・一元的対応の推進]

緊急に配慮を要するケースへの対応が迅速に行われるよう庁内窓口の一本化およびファミリーソーシャルワーカーを配置する

→現状での窓口の対外的また対内的な明確化、窓口間の連携の強化、intakerとしてのfamily social workerへ単なる窓口業務という役割ではなく、導入アセスメントをする面接員という位置づけを現在の散らばっている関係部署に必ず配置する

B [地域での支援体制の構築]

地域ごとの子育て支援体制の再編

→保健師、保護課ワーカー、児童委員等すでに地域で支援に関わっている専門職の地域割りを見直し、区民からみてわかりやすい体制で、地域でのニーズ発見と支援に関わってもらうことが必要です。

C [子育て情報の効果的提供]

ホームページや冊子などを活用した子育て支援情報の一元的提供

→せっかくリニューアルしたサイトですが、全くといっていいほどユーザーフレンドリーではありません。また、現在子育て情報誌を作成中かと思いますが、それとこの委員会と連携する必要はないでしょうか？

D [専門的支援ができる人材の育成]

子育て・子育て支援の中核を担う人材として福祉職を計画的に採用

→現在、このような仕事をする人材として福祉職を採用しているのかわかりませんが、児童相談所との連携ができるような能力を持った人材を区としても採用していく必要があると思います。一般行政職の採用試験では、このような資質をはかることはできません。

E [区民との協働協治による子育て・子育て支援の推進]

子育て・子育て支援に関わるNPOへの計画的かつ継続的な支援の開始

→この部分は文京区が非常に遅れている部分です。一部の大きなNPOや市民活動団体を支援するのではなく、多種多様な区民の活力を利用できるような、例えば、立ち上げ助成、活動継続助成、多様性対応助成などさまざまな仕掛けが必要です。

F AからCに関わる検討委員会の設置

Aの対象として考えられるケース

- (1)妊娠中の女性および産褥期の母子
- (2)一人親世帯
- (3)子どもが障害や病気等を持っている家族
- (4)親が障害や病気等を持っている家族
- (5)DV、虐待の被害にあっている母子(疑いがある場合も含む)
- (6)外国籍、日本語を理解できない家族
- (7)その他緊急な対応を迫られるケース

2 中期的ビジョン

A [専門的・一元的対応の推進]

庁内窓口の一本化およびファミリーソーシャルワーカーの配置による集中的かつ継続的な支援と連動した子育て支援機能の充実

B [地域での支援体制の構築]

区内大学の教育、福祉、医療、保健関係の学部・機関のネットワーク化の促進と区サービス委託・共同提供等の実施

C [子育て情報の効果的提供]

ホームページや冊子などを活用した子育て支援情報の一元的提供

D [専門的支援ができる人材の育成]

子育て・子育て支援の中核を担う人材として福祉職を計画的に採用の継続と人材育成

E [区民との協働協治による子育て・子育て支援の推進]

子育て・子育て支援に関わる NPO への計画的かつ継続的な支援の充実
[立ち上げ助成、活動継続助成、多様性対応助成などの P を検討]

F [国や都の関連機関の誘致]

渋谷区の東京都児童館、江東区東部療育センターなどの子育てに関する都や国の施設、機関の積極的な誘致

3 長期的ビジョン

「子育て支援、子育て支援の核となる総合的な施設の整備」

子育て支援、子育て支援に関するワンストップサービス拠点(ここにくれば、一度の手続きで、必要とする関連作業をすべて完了させられ、しかもサービス自体もこの施設内でほとんど受けられるような拠点)として総合的な大型施設を新規に建設する。

[必要な機能]

- 個々の区民のニーズに応じて、子育て支援、子育て支援に関するサービスを総合的に提供できるようにコーディネートできる専門職による相談・支援
- 必要なサービスへの利用登録が一度の手続きで完了するような支援エントリー・システム
- 年齢に合わせて十分に走り回ったり、遊べたりするような遊戯・運動施設
- 親同士の交流にも使え、子育て・子育て支援に関わる市民活動団体も利用しやすい研修室、会議室、ホール、事務スペース
- 保護者の事情で緊急に保育が必要な場合に対応できる緊急一時保育、障害児レスパイトサービス
- 区内の保育、教育、福祉に係る専門職やボランティアが区内の大学との連携の下に行う研究・研修機関
その他、考慮すべき点として以下のようなものが考えられる。

- A 区内のどこからでもアクセスしやすい(十分広く安全な駐車場の確保およびデマンド型交通などによる移動手段の確保)
- B 建物はバリアフリーや建材の安全性にも配慮し、子どもの育ちを支えるような観点から工夫されたものである
- C 個人情報保護および一貫したサービスを責任を持って提供するため、基本的には区の直営施設とする。

提 案

- テーマ、「子育て、親育て支援」を「子育て支援」もしくは「包括的な子育て支援」にしてはどうか。

==理由==

前回のワークグループの中でも声が出たが、「親育て」という言葉が良い印象を与えない。(誰かに自分を育ててもらったり、上から物を言われているような気がする。) →一般の区民(とくに保育者)から反感をかう可能性がある。

わかりにくい、一言で説明しづらい。

結局は子育てにはてしなく近いもの、もしくは同じゴールなのだからあえて誤解を招くリスクをとってまで(親育てという言葉を入る必要はないのでは?)

保育ビジョンに盛り込む具体的な内容

XX 保育園について XX

- 保育園入園条件の優先順位の見直し (病気、妊娠の優先順位を高くする。)

理由:もともとは就業支援として設立された保育園という施設だが、時代も変わり、ニーズも変化している。より、緊急、必要性を考慮し、人道的な優先順位を再検討する必要あり。

- 2人目の妊娠一出産後の保育園の利用できる期間を最低1年3ヶ月にする。

説明:現在2人目からの妊娠、出産までの期間は5ヶ月(?)だが、これでは短い。生まれてから1年くらいまでは夜泣きもするし、授乳もおむつかえも頻繁に行わないといけなく、衛生面でも気を使い、安全にも十分気をつけないといけない時期なので、一人目の世話をしながら2人目の面倒をみるのはとても大変。

- 区立保育園、全園での緊急保育の実施

現在緊急保育施設は区内に3箇所しかなく偏在している。保育ができないほどの体調が悪いときに、遠くにある保育園まで子供を連れて行ったり、連れて帰ったりは病人にとってはとても負担。

実際に、隣の区である新宿区ではすでに行われている。

- 緊急一時保育施設での緊急受付の体制づくり

現在では2営業日前までとなっているが、本当に緊急の場合はすぐに(場合によっては電話をして、すぐにそのまま保育施設に預ける、といったタイミング)、子供を預けれる体制づくり。

説明:急病の場合は、病気が発病したその瞬間から保育が欠けているということを理解してほしい。

- 緊急一時保育施設の利用する理由を必要に応じて拡大

【例:2人子供がいる家で一人が風邪、インフルエンザなどの感染症にかかったときに、もう一人が感染しないことを目的に緊急一時施設を利用できるようにする。】

説明:現在の緊急一時の利用理由は限られている。家庭内で病気が感染しないようにする、など病気を予防するために緊急に保育施設を利用することが子供を病気から守れるケース、一人が急病でつきっきりの看病が必要で、もう一人の子供の保育がかける場合など緊急性、必要性があるケースに緊急一時を使えるようにする。

- 保育園の役割を広げる。在園児以外にも子育て支援の提供 【子育てのノウハウ、情報の積極的な提供、(子供の)健康診断、予防接種といった保育に関することを全般に行う。】
理由：かつて、コンビニが単なる夜間も使える食料品であったのが、いまや宅配便の受付、写真現像、切手販売にいたらず、郵便ポストの設置までもしている時代である。保育園でも、月ぎめ入園している園児だけでなく、幅広いニーズに応えるべきでは。
- 保育園がいろいろな役割を果たすことができるように、保育園を増築、改築。
どの保育園もせまいので、増築、もしくは効率的な作業ができるように改築が必要。
- 第一希望とする保育園に誰もが希望通りに入園できるような体制づくり定員の拡大、増設、幼児の多い地区には新たな保育施設の設置)
説明：現在のシステムでは、第二希望以下の保育園に入園できれば、待機児としてカウントしていない。また第二希望以下の保育園に入ると、待機児としての順番待ちを放棄することになり、第一希望の保育園に入園できる可能性はとても低くなる。こういった制度の改善。
- (児童館主催でもよいと思うが) 保育園が在園児以外対象に、定期的にピクニック、ミニ遠足を主催
説明：文京区には3年保育を行っている区の幼稚園が少ない。それを補うべく、2-3歳くらいを対象に、定期的に頻繁に、子供にとって社会性が身に付くようなイベントがあると良い。(例：小石川後樂園、小石川植物園へピクニック、紅葉狩り、花見など、雨天の場合はトッパン博物館、シビックセンターの展望台、区役所内見学、幼稚園でおねえさん、おにいさんといっしょにランチを食べるなど。
(雨天でも子供をがっかりさせないプラン作り)

XX 一時保育施設 XX

- ぴよぴよの保育士のよりよい人材の確保。
説明：私を含め、ぴよぴよのスタッフの保育態度に不信、不安を感じている保育者が何人もいます。個人的な印象ですが、一昔の、厳しく、本当に困った状態までほっておくことが愛情、といった古いタイプの保育を方針としているようだが、時代にそぐっていない。ニーズを満たしていない。
- ぴよぴよのサービスの改善 (より長い時間の保育、おやつ品質改善、食事をさせる。)
理由：現在ぴよぴよでは、食事の用意はもちろん、用意した昼食を子供に持たせ、食べさせる、といったこともできません。これでは午前中は利用する時間がとても限られてしまう。)
- ぴよぴよの利用受付を(せめて)前日まで、と改善する
説明：現在、ぴよぴよの利用受付は利用日の3営業日前までとなっている。しかし「(母親が)急病の際などにご利用ください。」とパンフレットで案内している。矛盾している。
- 児童館での一時預かり
目白台の一時預かり施設といった一時預かりに特化した施設では、実際に預かってもらった保育者からしか感想が聞けないという不安がある。児童館でそのまま一時預かりをしてもらえれば、子供も親もいつも遊んでいる場所、いつもお世話になっている先生に預かっていただけるので安心。ほかの親子がみている中で保育が行われるので、後日、他のお母さんを通して様子を知ることができる。実際、千代田区、豊島区では行われている。

○ ショートステイ（短期間の24時間保育）の実施

区の事業の一つとして、急病、親のやむをえない事情にのみショートステイを実施する。区内で協力会員を募り、厳選、トレーニング。協力会員、都立の乳児院との橋渡し。既に新宿区、豊島区で行っている。

XX 民間の保育園、保育施設 XX

○ 良質な民間の保育園、保育施設の文京区への参入を支援する。

説明：民間の保育園、保育室での保育の質は格差が激しいので、区として、判断する目を養い、良質なものを積極的に支援、情報提供、参入の後押しをする。

XX 区にしていだきたいこと XX

○ ルールの柔軟化

区の現場担当者が緊急性、必要性を柔軟に判断し、承認、許可（例：保育園への入園、緊急一時保育など）できるようなゆとりのある予算、柔軟性のある体制づくり

○ 業務見直し、改善のスパンを短くする

ここ数年のマンションラッシュにより、文京区の人口分布は急変している。1年間のスパンで予算をとり、テスト的に事業を行い、その改善はまた予算が確保できる1年後、、、といったスピードではニーズに応えきれていない。例：緊急一時保育という緊急施設が満員で緊急な場合に入所できないケースが発生している。

○ 子育ての現状を積極的に理解、把握する機会を定期的にもうける。

子育て支援に対するニーズは住んでいる地域（幼児の密集具合、保育施設、病院までの距離、坂、商店街のありなしなど）、家族構成、夫の就労の形、所得によって違い、また子供の月齢によって、変化する。どういった地域で、どういった保育者がどういったことが困難をかかえているのか、積極的に理解する機会。（例：保護者から定期的にヒアリング調査、保護者とのざっくばらんな座談会）

○情報の積極的な提供

緊急一時保育、一時保育、区からのサポートなど保育に関するサービスを知らない保育者がたくさんいる。ホームページでの案内、保育士、区職員などから積極的な情報提供が必要。とくに子供が生まれてからしばらくは家の外からの情報を保育者から積極的に収集することはとても難しい。

X 区民が行政に参加しやすい体制作り X

○区からの行政に関する簡単な説明

一般区民には、区からの行政に関する（バジェット、計画など）の文書、冊子、電子ファイルなどはとても難しい。せめて保育に関してだけでも、もう少し簡単にまとめた文書、説明会といったことを行ってほしい。

○保育に関する部署との相互理解の場をつくり、手近に解決できるものをアイデアなどで解決

保育者が区で行っているサービスをよく知らず、保育の現場を知っているべき保育担当部署の方々があまり現状を把握できていない。保育者と、保育の担当部のスタッフが情報交換、話をするきっかけとなる場所づくりがあれば、コストも過程がながい審議を待つこともなく解決できることがあるのでは。

補足：特に文京区の特徴として、結果として成果はいつも優れているけど、保守的でなかなか実行されないという評判。マンションラッシュを迎え、変化の激しい文京区では、融通がきき、フットワークの軽さが必要。

==区民の権利と義務==

保育の充実を区民の立場にたって、誠意をもってくれるリーダー（区長、区議会委員）を見極める目を養う。そういった方を選んでいく。

（所属団体、宗教、思想だけにとらわれず、保育改善が区の急務であることを認識し、実行してくれる方を区民たちも監視する必要がある。そういった認識がないことがわかった段階でなんらかの形で積極的に異議をとなえていく姿勢が必要では。）

XX すでにある制度、人材をソーシャルワーカーとして活用 XX

○ すでに存在する民生委員もしくは、保育士がその担当地区でのソーシャルワーカーとして、機能する体制作りを行う。

説明：保育者にとって、保育に関する細かな生活上の相談ができる場所が少ない。またそういった場所に小さな子供を連れて行くのも大変である。民生委員は44名も折り、細かく担当地区まで決まっていながら地域、担当地区に特化したサポートを行っていないのが現状。

保育士の中にはすでに区民の生活上の細かな相談をうけるといったソーシャルワーカーとして機能をしている例もある。こういったケースを一部の個人的な、特殊な例としてとどめず、保育士の業務の一部とし、ソーシャルワーカーとして機能させていく。同時に、ソーシャルワーカーとして必要な権限の拡大。

XX すでにある制度の改善、活性化 XX

○ ファミリーサポートの事務局の体制の改善

マンパワー不足、スタッフの応対の悪さ（ボランティアでやってあげているという態度はよろしくない）、スピード感のなさ（約束の期限を守れないなど）は改善すべき。

○ 保育ママをもっと増やし、保護者が自分のスタイルにあった保育をチョイスできるようにする。

XX 児童館のよりよい活用、改善 XX

○ 児童館スタッフの厳選、教育、優遇

理由：児童館のスタッフは子供にとって貴重な大人との接触であるにもかかわらず、厳選、トレーニングされていないのが現状。（例：はきがないスタッフ、適切な判断ができないスタッフ、子供に目上のものでして尊敬されていないスタッフ、子供とよりより信頼関係を持てていないスタッフ、ときには子供とどう接していいのかとまどっているスタッフさえもいる。）

また、良い人材が集まり、留まる魅力的な職場として、よりよい待遇も必要なのでは？

○ 午前中のプログラムの充実化、魅力あるプログラムで午前中の児童館を充実させる（例：英語を使ったプログラム、エプロンシアター、図工サークル、など魅力あるプログラムを早めの午前に盛り込む）

ほとんどの児童館では、お昼直前の30分くらいしか、小さな子供対象のプログラム（体操、リトミックなど）を持っていない。午後、学校が終わった小学生が児童館に移動すると、小さな子供はまったく児童館が使えないのが現状。

午前中の児童館のあいている状態をより有効に使う工夫が必要。特殊なプログラムを外注するなどして、早起きしてでも参加したいと思わせるようなプログラムをあえて午前中に投入する。

特に、3歳、4歳の子供は就学を控えて、早起きに慣れることも必要なもので、より早めの時間帯に3、4歳、お昼に近くなるにつれ、より小さい子供対象、といった子供の生活を考慮したプログラム作り。

- 母親を対象としたプログラム（例：託児つきのエアロビクス、ヨガ、太極拳など）
ほんの 30 分～1 時間の短い時間、子育て中にはなかなかできない体を動かし、リフレッシュする場を設ける。午前中の児童館がすいている時間を活用。
- 文京区の日本人の母親だけでなく、他の区からの外国人ママさんも利用できるようにする。
説明：以前、文京区の某児童館で外国人のほかの区からのママさんと何人かで児童館に遊びに行ってもいいかと電話でその児童館に問い合わせたところ、断られた。
- 児童館の増築（とてもせまい児童館が多い）
- 全児童館をバリアフリーにする。もしくは階段の上り下りはスタッフが（業務の一部として）手伝う。
- すべての児童館のトイレに子供用トイレ、おむつかえ台、子供を座らせておける台（個室）などの設置をする。
- 空調の完備
説明：真冬でも開館時刻をとくにすぎても暖房のスイッチを入れていない児童館がある。
- 児童館の土日の開放、お父さんも参加しやすいプログラム
現在、文京区の児童館は月～金のみ開館しているが、土曜日にも開館する。お父さんが土曜日、日曜日に仕事がある家庭は、子供を遊ばせる場所がない。遠出はお父さん、お母さんと分業すれば可能だが、お母さん一人で子供も重い荷物を持つての遠出はとても負担になっている。
また、土日しか休みがないお父さんにとっては毎週、毎週遠出するのは負担だと思うが、土日はなんらかの子育てに参加したいので、結局くたくたになりながら遠出、というお父さんも多いはず。近くで、家族みんなで楽しめるような児童館のプログラムがあると、近所のほかの家族との家族ぐるみでの接点もでき、手軽に家族みんなで楽しめてよいのでは。

XX 図書館の活用 XX

どこの児童館にいても、午後は常に小学生で大混雑。小さな子供は遊べない。児童館以外にも子供が遊べる、なにかできる場所、プログラム作りが必要。

- 絵本のよみきかせ、イベントをもっと頻繁に行う。
現在それぞれの図書館では週に一度しか絵本の読みきかせのプログラムを設けていない。もっと頻繁に、かつ、もう少し、年齢ごとに、絵本の読みきかせを行う。年齢を区切ること、よりその年齢にあった絵本を選んで読み聞かせることが可能。少人数で、より絵本に集中できる。エプロンシアター、人形劇、紙芝居なども定期的に頻繁に行う。「図書館に行けば、常になにかしらのイベントをやっている。」という状態が理想では？
- 空いている部屋の活用
空いている部屋を、保育に関する行事、ママさんたちの、文化的なサークル活動に提供。（子供と歌を歌う、絵本を読み聞かせるといったサークルなら他の利用者には迷惑にならないはず。）

- 英語の絵本の読み聞かせ → 英語の絵本をもっと身近な存在に。
外注、もしくはボランティアを募って、英語の本の読みきかせを行う。
理由：水道端図書館では英語の絵本が豊富だが、古いこともあり、閲覧する人の姿を見ないのが現状。もっと英語に興味がある親子に、英語の本に触れる機会を与え、英語の絵本コーナーを活性化する。
- 英語の本の検索方法の見直し
英語で館内でも、ホームページの検索でも検索できるようなシステムを作る
理由：図書館では、英語の本にあえて、邦題をはりつけ、それをもとに ABCD 順に陳列している。
また、図書館のホームページから英語の本を検索しようとしても、邦題でしか検索できない。また検索しても、英語で書かれている本なのか、英語の本を日本語に翻訳したものなのかが一覧で見れなく、使いづらい。
またいずれにしても、自分が興味がある英語の絵本を、邦題を探しあてるというかなりの労働をし、それをもとに、日本語で検索するということをしないといけないので大変。
- もっと新しい英語の本を増やす
水道端図書館などは英語の絵本が多いが、全般的に見た目も古く、内容も古いものが多い。最近の英語の絵本はおしゃれで見た目も華やかでいろいろな工夫がされているので、こういった本が図書館にあると、子供も英語の絵本に興味をもつのでは。

XX 保護者、子供のサークル活動、文化活動の支援 XX

文京区には子育て中の母親が主催、参加できるサークルがほとんどない。新宿区では他の区から入会の申し込みが殺到するほどのサークルなどもあり、サークル活動がさかん。豊島区では無料でサークル活動などに使える小部屋が（他の区の人にも）利用できる。

- 保育、子育て中の母親たちのサークル活動、文化活動に限り、（サークル活動に使う）施設を無料、もしくはもっと安価で利用可能にする。
- 子育て中の母親のサークル活動、文化活動の際には安価（もしくは無料）の良質な保育スタッフを手配するなどの支援。
- 区が親子で参加できる催し、イベントを定期的に主催する。（親子で参加する英会話教室、リトミック、図工、お菓子教室など）
- 区が子供の習い事、文化活動の経済的な支援する。（例：区が良質な教室、団体（のみ）と提携し、その教室、団体に関しては、入会金の免除、授業料の割引などをもうける）

XX 医療の補助、改善 XX

- 乳腺炎治療など、健康保険がきかない、妊婦、乳幼児の母親がかかる特殊な病気の治療費を免除、支援、もしくは安価で質の良い治療スタッフの自宅への派遣、あっせん。
理由：科学的に、母乳は子供にとってもよいと証明されているが、母乳を与えている母親にしかかからない乳腺炎の治療は保険外治療で高額。一回の治療が 4,000 円－5,000 円、週に 1 回程度必要な場合もあり、さらに子供が小さかったり、冬だと他の乗客からのかぜなどの病気の感染を考えると電車にもものせることができず、タクシーで移動となり、一度の治療に 1 万円以上かかる。経済的にはとても負担。

○内科、外科、耳鼻科といった小児科医外の場所、一時的な特設会場での予防接種の実施

子供の予防注射は小児科で行うのが一般的だが、小児科にはたくさんの病気をもった子供がいて、小児科に行くことで、病気を感染してしまうことが多々ある。

子供たちに病気にかかったほかの子供に接触することなく、安全に予防接種を受けられる体制作り。予防接種用の時間をもうけている小児科もあるが、逆にこういった時間を設けることで急病の子供を診察できない現状がある。

○ 集団接種の改善

現在ポリオなどは現在より少人数、小規模で行う。

説明：現在は、数ヶ月の子供から1歳代の子供までが大きな会場で泣いたり、叫んだり、番号を大声で連呼するスタッフなどの騒音の中、長い列をつくって、ごちゃごちゃと集団接種を受けている。これだけ子供が集まるということはなにかの病気を集団感染する危険性もある。ベビーカーの広い会場の外に置かなくてはならず、荷物も重く、待ち時間も長いので体力的にしんどい。もっと小規模で、こじんまりと、行列を待つことなく、無理のない時間、場所わりがよい。

補 足

○就労の有無に係わらず、親の支援は必要。（大変な状況は就労に抛らない。）

○困っている親をどう支援するかは難しい。

例【支援する側として】

・民生・児童委員の活用：基本的には「見守り」の立場。

制度のPRは必要だが取扱うケースについては内密にしなければならない

・NPO

【支援の内容として】

・家庭訪問・一時預かり・・・必要性が高まっているのでは。

【支援対象として】

・外国人・・・増加傾向

・児童虐待

○必要なサービスを得るためのアクセスする方法を情報提供していく

○子育てひろばを今以上に増やしていく・・・情報交換の場として

○現在の子ども家庭支援センターの機能の充実を図る

○様々な関係機関（行政）・民間団体（NPO、民生・児童委員など）が連携をとる

○お互いが支えあって暮らしやすいまちにしてい

第3グループ（親の就労・多様な生き方の支援）

1. はじめに

課題に対して、なぜ出来ないか、を中心に考えるのではなく、どうすれば出来るかを考えていくことを基本的姿勢とする。細かい事情はいろいろあると思うが、ビジョンにそういうことが望ましい、考えるべきと入れていくこととする。直ちに実現すべきということばかりではないかもしれないし、活用するのは簡単ではない場合もあるだろうが、柔軟な工夫はできないか、ということを考えていく。

それと同時に、たんなるお話としてつまみ食い状態にならないように、今回のビジョンは、ビジョン2006として、今後の検証を定期的に行っていくことも大切である。

2. 保育園のあり方

- ①親が希望すれば保育園に入園できる体制を目指すということ、理念としてうたうこととする。保育園に入っていないと就労できない、就労できていないと保育園に申し込めない、という悪循環を絶つ。認可園で対応して、待機児をなくすということ。また、育児休業後に、年度途中でも保育園に入れるしくみも必要。
- ②親の多様な生き方を選択できるような社会をつくろうということであろう。専業主婦も孤立せずに社会とつながりをもっていこうという。実際に、緊急一時で預かる子どもは0~2歳児がほとんどだが、1歳児の発達はどうか、言葉が遅れているけど大丈夫か、0歳だとミルクのみが遅い、離乳食をどうしたらいいかなど、保育園からみると初歩的な質問をたくさん受ける。そういうことをなかなか聞く人がいないのであろう。今の状況では難しいだろうが、働いてない人にも保育園で対応していくことは必要。
- ③危険が多いから公園で遊ぶのも親がつきっきり、家に帰るとマンションでは騒ぐと言われる。住宅事情も治安も悪くなっている。小学生でもひとりでお使いにやるなど生活上の訓練をすることが難しくなっている。こういうことでは子どもが大丈夫なのかと不安になる。親が育児に不安をもち、ノイローゼになるのも無理はない。そういう環境ということからも、親が希望した場合には、保育園を利用できることをめざす、ということも、すぐには実現は不可能でも、ビジョンとして理想を掲げてもよいのではないか。

3. 文京こども園構想

- ①2歳から幼稚園に通わせるようにしても良いのではないかと考える。親の選択もいろいろできる方がいい。少子化、核家族化で親と子1対1の時間が多くなると、子どもにとってもよくない。慣らし保育的な意味でもいいのではないか。（区立幼稚園は3年保育がないので、3歳のときは私立、4歳から区立に入れている人もいる。）
- ②幼稚園か保育園かという区切りになってしまうと、2歳児をどちらに入れてもいいのだが、現実的には、幼稚園で2歳児まで受け入れる施設的な設備、職員のノウハウはない。それよりは、やはり幼稚園でも保育園でも同じ子ども。幼稚園と保育園の垣根をなくして、同じ施設の中で育ちながら、長時間、2時までなど、親の生活にあわせて子どもの生活を保障できるのが理想であろう。今の一元化の方法はよくないと思われるが（柳町こどもの森は、あまり成功していない、お母さんたちは評価していない、という話も聞こえてくる。）幼とか保とかいう言葉自体をなくしたい、というところ。
- ③目玉の政策として、幼保一元化という既成の概念でなく、上で述べられてことを実現するための特区申請をすることを提案できないか。厚労省にも文科省にもしぼられないものと考えていく。もっとも、言うのは簡単だが、制度を調べ、財源措置もからめて考えていかないと実現性は低いままなので、特区申請するにも知恵と時間が必要である。

- ④以上を踏まえて考えてみると、採用のときから両方の資格をもっている人を採用することも必要である。但し、現実には、両資格をもっている人がほとんどだが、意識の問題がある。幼稚園教諭は保育園を低くみていると思われる（幼保一元化のプロジェクトでも、4・5歳は幼稚園児となるため、担任は幼稚園教諭だけで保育士は担任にはなれない。）
- ⑤仮に、労使間の問題（採用職種を変えない等）があるのであれば、相互に併任を掛け合うというような現実的対応策も考えられる。
- ⑥幼稚園や小学校ということではなく、区のもっている施設を有効活用することも検討に値する。空いているリソースをもっと活用して、保育園を充実するべきだと思う。

4. 子育てひろばの拡充

- ①子育てひろば、3か所しかないので拡充すべき。
- ②現在は3時までだが、来年度から4時までに延長する予定である（4時だと、帰って夕飯の準備をするのもちょっといいとのこと）。子育てひろばのいいところは登録制なので安心。保育園、幼稚園の園長といった子育てのプロに相談できる。

5. 公園づくり

- ①区の人がハードだけつくってはだめで、周りに住んでいる人の公共財という意識をもってもらうことが重要であるという話を聞いた。まわりが清掃する、夜は浮浪者が入ってこないように鍵をかける、剪定をするなど、住民参加で管理していく取り組みなど。公共財産、コミュニティは宝、という意識の植え付け。
- ②公園に対する意識は住民間でも希薄だし、行政はもっと希薄。新しくしようというときにモダンなものに変えようとするが、人の交流を頭に入れていないという話である。公共の公園はすごく大事。
- ③市民の子どもに対する意識も大事。近くに児童遊園があるが、子どもの声がうるさいでしょ、という人がいる。駐車場よりずっといいと思うが。そういう人がいることにびっくりしたが少なくないかもしれない。その意識は少しずつでも変えられると思う。

6. 働き方について

- ①オランダなどでは、ワークシェアリングがうまくいっていると言われている。女性を職場の中でうまく活用することはできないか。パート志望者というのは、OJTのような気分でまずパートで働いて、という人も多し、ドクター、マスターをもっているがためにかえって職業がない人もいっぱいいる。潜在的な希望を吸い上げることができれば、夫の扶養控除も減るから、所得税も増えて、地方税にもはねかえる。
- ②長時間がどれくらい一概にはいえないが、保育園で夕飯まで食べる夜間保育は、子どもにとってどうなのか、という思いはある。家族で一日の出来事を語り合いながら、楽しく食事をする方がいい。保育園で保育士と食事をとるのが毎日という生活で、子どもがどう育っていくのか危惧をもっている。そういうふうにしなないといけない家庭もあるのかもしれないが。それは、もう少し家庭的な雰囲気の中でフォローできる制度、しくみが必要。集団でみるのではなく。
- ③長時間労働を解消しようという目標をたてること自体は間違っていないが、そこに本当に何年間で行けるのかなあ、と考えてしまう。10年、20年かかるのとしたら、その間の子ども達を放っておく訳にはいかない。現実の中で何が一番いいのかを考えないと、変な対立がおきるし、長時間労働をやめさせよう、というスローガンだけになってしまう。企業の立場からいうと、生き残りをかけて正規社員を基本的には減らしてきたので、残った人の負荷は増えていて、早く帰ろうと思ってもなかなか無理。そのためにキャリアを半分あきらめて短時間労働を選択している女性は多い。そこまで踏まえてどう考えるかという視点が必要。

- ④言い続けることはもちろん重要であり、保育時間が長いというのは、親の生活にとっても良くないことであり、何より、一般的に言って子どもにとって良くないことであろうから、その方向性で声を上げていくことには賛成である。但し、ちゃんと 9 時-5 時で勤めて子育てに時間をかけていないのはおかしい、という議論にのみなってしまうことは避けなければならない。無用な対立、論争を生む。フルタイムかパートタイムかということで待遇とかペイが決まらずに、同一労働同一正規ということの実現が大切。正規というコンセプト自体がゆらいでいかないと、ワークシェアリングは実現しない。文京区で独自にそういうものを出しても悪くないが、文京区がひとつの産業をもっていけばいいが、そうでないとなかなかできないものではある。
- ⑤フェアなバランス感覚が必要ではないか。子育てを最優先で考えましょうということは、目標としては正しいが、それがドグマになってしまうと、親に対する支援をすること自体、長時間預かること自体がいけないことになってしまう。個別の事情を踏まえた対応が大事であろう。子育てしている親がある程度安定した精神状態、肉体状態であることがまず必要なのだから、それを支えという視点も考えると、おのずとバランスが取れるのではないだろうか。
- ⑥今回は、日本の社会はこうあるべきだ、ということを示すことにとどめて、それに矛盾しないかたちで施策の種を並べるというのがひとつのまとめ方。深く考えるのもひとつの方向であるが。(文京区の保育は 7 時 15 分までで、8 時まで延ばそうということは検討していないし、現時点で計画はないと思う。保育園の後、ベビーシッターに預けている家庭もあるので、夜間保育の需要はあるかもしれないが、少数と思われる。)
- ⑦長時間労働をなくす、ワークライフバランスをとるように、と企業に呼びかけることも重要。それと同時に、文部省と厚労省をやめ、子どものための省をつくる、というのはどうか。生き残りをかけて行動している企業に単に呼びかけるより、中央政府に子どものための省を実現してくれ、と言う方が、実現の可能性はあるのではないか。そこから、企業に対するメッセージ、社会に対するメッセージを強く出していく。

7. 企業の取り組みの支援・企業による社会貢献の支援

- ①企業に対する支援として、表彰制度は簡単だが、効果があるかどうか不明。企業はメリットがないと取り組まない。区が実施する中小企業向け子育て支援事業も、実際に費用をかけて支援をしないといけないので、申請がない。
- ②区内の企業もそうだが、文京区民が行っている企業なら区外でも支援してもいいのでは。すばらしい取り組みをしていて、区民がその制度を利用していたら通勤費を 1 万円補助する、等である。但し、こうしたアイデアはありえなくはないが、区に法人税を納めている企業にメリットを与える、というのは頭の整理がしやすいが、このままでは個人が対象になるし、不公平も生じる。一工夫必要ではないか。
- ③第 2 グループで出た意見：子育てにやさしい店ということでステッカーを貼ってもらう取り組み。トイレや授乳場所を提供するなど。企業による子育て支援活動の啓発になる。
- ④印刷工場のリフトが歩道を往来するので、子ども連れが歩けなくて困るという意見があった。そういうことに対して指導はできないか。あるいは、指導といわずに、子育てに配慮した事業所ですよ、という方向で、ステッカーを貼ってもらってはどうか。指導と応援を組み合わせればいい。
- ⑤エレベーターの開くと閉まる表示が、メーカーによっても違うし、わかりづらく、ベビーカーを押して乗る人は大変と聞く。人目でわかるように、シールを貼るなどマークを統一するのはどうか。子育てにやさしいエレベーター。また、公共施設のエレベーターへの実施と、区内の事業所に協力を呼びかけていくことも考えられる。
- ⑥子どもを連れている人にやさしく、手伝おう、という啓発活動も必要。企業も安全なまちづくりをサポートする、企業もまちの構成員として、子育てのしやすいまちをいっしょにつくろう、というコンセプトである。
- ⑦民営化という方向性を単純に進めると利益追求型となり、想像もつかないような事件も起こりかねない。企業の税務調査同様、定期的な査察が必要であろう。

⑧現状のままでは、企業は多様な雇用を進めることになかなかならないのではないかと。やはり行政がルールを作り、負担と助成をうまく組み合わせて、企業が動かざるを得ない状況を作ることが必要。環境問題同様、口ばかりスタイルばかりとなってしまうことを避けるためには、ある程度、制約力のある目標を国として示すことも重要。

⑨この関連では、就業規則を労働基準監督署に届出するルールにしても、ルーズすぎて、正直者が馬鹿を見るようなことではシステムとしておかしい。もっと定期的に申請させ、また、精査すべきである。

8. 情報へのアクセス

①セミナー等のPRは、区報のほか、ホームページ、チラシの配付、ポスター掲示などでPRしているが、残念ながら、チラシは置いてあるだけでは目につきにくい。どこかの窓口にいけば、一括、一覧できるようにしてほしい。(今回の公募委員についても、区報がなんとなく目に入ったから応募したが、他の情報といっしょに羅列されているだけなので、目につきにくかった。ホームページも頭の方であればわかるが。) 区の施設等に行けば分野別に整理されているなど、ホームページに載っているというだけだとわからない。アナウンスメントの仕方が住民に届きにくい。

②対策としては、次のようなことが考えられる。

- ・くちこみの組織をもっと活用すべき。メールを活用するなど。文京区の女性は、文京区で育った人が多い。ちょっとした立ち話、メールなどですぐに広がる。
- ・役所に関係のないネットワークを活用して発信しようと試みが、区民との距離を縮めることにつながる。広報や政策を認知させるための手段。メディア、草の根、くちこみなど。ファイルがあれば、費用もかからず、メーリングリストに流したり、ホームページやブログに載せることも可能。
- ・子育てというくくりで、何でも載っているペーパーがあるとよい。区からの情報、NPO等民間からの情報、必要な情報がぼんと入るものがあるとよい。予算はどうするんだ、という問題はあるかもしれないが、あったらいいな、ここをめざすべき、というところから、それを実現するためにはどうしたらいいか、というアイデアを出していく方向で議論したい。
- ・安心メールのように「子育てメール」があってもいい。限定したグループの中で情報を共有するしくみ。登録者に情報発信できる。そういうものが浸透すると、区の意識が区民にすごく伝わると思う。(混乱を避けるためには、問い合わせの受け皿は別に。URLをつけるなどの工夫をすればいい。)
- ・健診などの機会で、そういうものがあることをアナウンスするとよい。
- ・だれでも書き込めるかわら版のようなものも考えられる。

第4グループ（保育機能の中核としての保育所）

1. 「保育とは何か」について

まず我々は、「保育とは何か」について話し合った。以下のような諸点について、意見の一致を見たところである。

保育と教育が区別され、幼稚園では教育を実施しているが、保育園では教育が行えず、保育のみを行っているという、誤った考えが流布しているのではないか。他方、学校教育法においても、幼児期について「教育」ではなく「保育」という表現を用いているが、その理由は何であろうか。一つの回答は、以下の通りである。

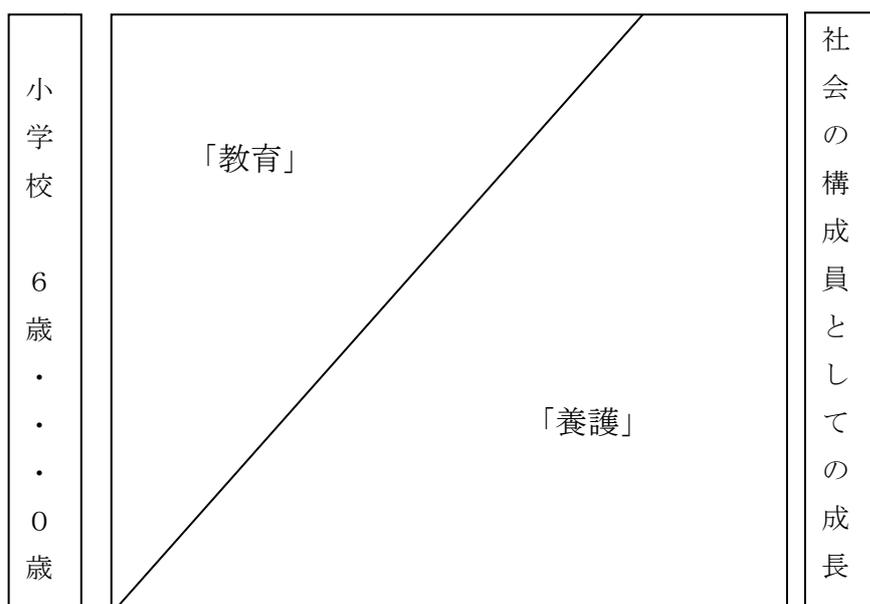
幼児期の子ども達に必要なものは、①基礎的な生きていく力の形成等（即ち、「生活習慣の確立（排泄、食、着脱、健康な体、生活力） & 社会性の獲得」＝養護）と、②個々がその個性を発揮し社会で活動していくための知力、能力、技術の向上等（＝教育）の両者であると考えられているからではないか。

もちろん、この両者は密接かつ有機的に関係しており、それゆえ、幼児期においてこの両者を区分して実施しようとすることは無益ではないか。こうした基本的な問いかけは、就学前児童に関して、人数的に保育園の関与（210万人の子ども達）が幼稚園のそれ（170万人の子ども達）を上回り、その差が拡大の一途をたどっている現状に鑑みても、一層重要な課題となっていると考えられる。

さらには、この両者の重要性は、就学前の乳幼児期に限定されるものではなく、義務教育期、さらには、高校以降においても認識されるべきではないだろうか。

以上の認識は、今回の保育ビジョン2006及び保育園の機能について考えるに際しても、また、より広く、保育方法の形式知化とその受容性のアピール、保育に関連する研究の抜本的拡充、保育所保育指針の位置づけの向上、望ましい幼保一元化の実現等を考えていく際にも、基本とすべきものである。

（概念図）



2. 「保育ビジョンの基本となる考え方」

保育ビジョンのエッセンスを現すものとして、こどもを大事にする街、こどもが元気に安全に育つ街、こどもを育てやすい街、安心してこどもを育てられる街などがキーワードとなるのではないか。その具体的な表現に関しては、最終報告までの期間で議論、決定していくこととする。基本的な考え方として、保護者にとっても、地域にとっても、行政にとっても「こども」が大切な存在であるという、合意が出来たことを示す表現が好ましいと考える。

3. 「保育園の基本的機能と役割」について

少子化の原因のひとつとして、子育てを行う環境の変化とそれに対する子育てサポートの未整備が考えられる。核家族化の進展が、家庭での子育てを困難なものとし、これが結果的には、少子化の一因となっている可能性がある。少子化による1家庭あたりのこどもの数の減少は、子育て経験の欠落と、一層の核家族化の進展をもたらし、将来世代に渡って、家庭での子育てをより困難なものとしていく、という連鎖も想定されよう。少子化の原因については様々な考え方があるであろうし、また、そもそもこれを問題であると考えべきかどうかについても異なる見方もあり得よう。但し、それはそれとして、待機児童の存在など、設備や態勢に関する問題はもとより、虐待や子供にまつわる様々な事件など、子供を生み育てることを決意する際、躊躇せざるを得ない状況や情報が満ち溢れているように感じられることは事実である。

このような状況の中、こうした問題のいくつかを解決できる、子育てサポートを提供できる場所として保育所に期待する役割は重要であると考えられる。なお、子育ての重要性と子育て支援を対立的な概念ととらえるのではなく、親、保護者が健全でなければ、子どもにとって安心できる環境が実現することは臨みがたいという事実に基づいて、今後について考えていく必要がある。

従来の「保育に欠ける」状況への救済施設とする発想から、様々な子育てニーズに対応した子育てサポートを提供できる拠点としてその役割を考えていくべきであり、保育園の基本的機能と役割について、次の通りの整理を行った。

(1) 少子化、核家族化の進展の中で家庭での子育てが難しくなっている状況のもと、地域、家庭における子育て支援の拠点としての役割を明確にしていく。

(2) 子どもたちの心身ともに健全な発達と成長を保障するための保育園の役割を明確にするとともに、保育の質的向上を図る。

(3) 地域における子育て支援のネットワークの中核としての役割を担っていく。

4. 保育園の具体的役割

(1) 以下の具体的役割を充足していくことにより「地域の子育て力を高め」、「地域の子どもの育ちを見守る保育園」として認知されることを目指す。

(2) また、これを効率よく、機能的に実現するため「保育園が現在持っている人的資源・物的資源を活用する」ことも重要となる。

(3) ただし、これら役割の増加に伴う負担が、現状の人的資源・物的資源の許容範囲を超えることなく、施策と紐ついた人的・物的資源のさらなる投下を検討、実施する必要がある。

(4) また、何をもって許容範囲を超えるかを判断するためにも「保育の質」などの基準を明確にすることが大事である。

(5) 具体的役割の各項目は次の通りである。

① 子どもたちに対する責任

- ・ 家庭、地域の子育て支援と親たちの子育て力を高めていく。

- ・ 入園している子どもたちの「育ち」＝「保育（養護）と教育」に責任をもってその向上に努める。
- ・ 保育園が持っている社会的、公共的な人的・物的資源の活用をはかる。
- ・ 小学校にスムーズに入学し楽しい学校生活を送れるよう小学校との連携を図る。（交流、情報交換、訪問活動、見学、参加など）

②「子育てと仕事・社会的活動の両立」の支援（＝仕事と子育ての両立を支援する保育サービスの提供拠点としての保育園）

- ・ 保護者の就労を支援しながら子育てを支えていくといった保育園の機能は重要な柱である。
- ・ 保育所待機児童の解消は当然の目標。として、
- ・ 潜在的な待機児童の認識とその解消にも努力する必要がある。そのための、十分な保育園の数の確保。
- ・ 延長保育スポット利用、病後児保育への対応、年末、年始、祝祭日保育等も検討課題となろう。
- ・ 通園の距離や、兄弟が別の保育所に通わざる得ない状況の解消など、細かい問題、ニーズの調査と具体的な対応策の検討も欠かせない。
- ・ 月1回くらい先生と親がフランクに議論できる機会ができるとよいのではないか。そうしたところから、みんなで子育てをする雰囲気につながっていくのではないか

③「家庭・地域の子育てサポート」の実施

未就学児童では、これから子どもを生む人・家庭のみで子育てをしている人・幼稚園に通わせている（通わせたい）人・保育園に預けている（預けたい）人、を具体的にサポートする施策やしきみが必要になる。これらを的確に捉え、解決策や具体的な子育てサポートのメニューを考えていくことが重要である。例えば、子供を介しての地域コミュニティとの接点の構築や、広義の子育て支援のインフラとして、家庭のみで子育てをしている親と保育園に預けている親との接点や、子供同士の交流などを目的とした、メニュー作りも大切なテーマとなる。より具体的には以下の通り。

A) 具体的な子育て支援と相談

- ・ 出産予定者への援助、相談
- ・ 出産後の相談、援助
- ・ 子育ての悩みへの相談、援助
- ・ 母親のリフレッシュへの援助
- ・ 子育て体験学習（乳児中心に）
- ・ 校庭の開放
- ・ 図書の貸し出し

B) 子育て支援ネットワーク

- ・ 「ひろば、支援センター」などのネットワークづくり
- ・ 子育て支援のボランティアのネットワーク
- ・ 子育てに関係するサークルのネットワーク
- ・ 家庭内の子育てサポート機能を援助する拠点としての保育園
- ・ 子育てに関する安心を提供できる「保育の質」を根拠として運用される保育園
- ・ 子育てに関する知識や情報を提供、共有化できる場所としての保育園

④保育園を社会的・公共的資源（役割）として活用する 各地域に根ざした保育園

以上の他、高齢者との交流や地域の祭礼などへの参加を通じた文化の伝承、社会教育機能（ボランティア、小中学校職場体験、）さらには、行政と区民との情報交換の場としても今後、重要な役割を果たすと考えられる。

- ・ 校庭の開放
- ・ 小中学生の体験学習、ボランティア活動に活用
- ・ 地域の人たちが保育園の行事等に協力し、子どもたちに伝承する
- ・ 地域の老人（施設）との交流（老人生き生き運動）と子どもたちが伝統を学ぶ経験活動
- ・ 幼児教育大学（専門学校）等の学生の乳幼児体験と研究教育に生かす

地域の文化の伝承

- ・地域の伝統行事、文化活動への子どもたちの参加、協力
- ・伝統文化のネットワークをつくる

5. 保育園の機能を高めるための方策について

以上のような施策を実施するに際して、保育園の役割と機能を高めていくためには、・ソーシャルワーク体制の確立、保育士、ボランティアなどの研修システムの確立、ネットワーク、サークル担当、コーディネーター等の講習、研修システムの研修等が重要な課題となる。また、人員の原状回復、増強も喫緊の課題である。

- ① 保育園の機能が拡張されることに伴い、新たな人材の育成や、より多くの人員の保育園への配置を適切に検討していく必要がある。目的に則した配置基準の見直しも必要である。
- ② 子どもたちの成長を保障していくためにも「保育の質」の内容を明らかにし、適切な「子育てサポート」の内容を検討して新たな役割を果たせる仕組みづくりが大切になる。
- ③ 「保育の質」に留意しながら、顕在、潜在的な待機児童の解消のため更なる、施設の新設なども検討する。
- ④ なお、現在17園ある公設園すべては、子育ての拠点として機能する「公設公営保育園」としてより一層大事に維持していく。
- ⑤ 事業の効果を最大限に引き出すために、現在定員割れを起こしている状況を早期に改善し配置基準どおりに保育士を配置していくことが重要である。

6. 保育ビジョンを実現するための前提条件について

- ① 「子育てサポート」の具体的内容に関しては、子供の立場、親の立場、地域社会での重要性などの視点に立って広範に議論され、企画される必要がある。
- ② 「保育の質」に関しては、より具体内容とこれを維持していく仕組みも含めに審議、検討し続ける必要がある。
- ③ 今回の委員会内でも「保育の質」を検討していくが検討項目の積み残しが生じる場合は、継続して審議する必要がある。
- ④ これら「子育てサポート」「保育の質」は、専門家と実際の現場の声として、さまざまな立場の保護者や保育園の現場の先生を交えた仕組みの中で話し合われるべきである。
- ⑤ 保育ビジョンに基づき、具体的な施策を実施していく。このとき、必要となる費用の調達に関しては、そのサービスを享受するために、文京区民になろうとする人からの税収などを考慮して、総合的に判断していく。
- ⑥ 保育園の利用に関しては、受益者負担として保育料の費用テーブルの改定も、聖域とせず議論の対象にすることも考慮する。但し、この費用テーブルの改定が、結果的に「保育の質」の低下に繋がるような変更で無いように十分に配慮する必要がある。公立保育園関連予算は既に一般財源化されており、これまでのところは従来の積算基準通りであり、大きく削られているということはないものの、今後、保育料が上がった分の使い方が他の部分に回ることはない様に、きちんと保育にまわるようにしないといけない。そのためには、会計の仕組み等をしっかりとつくる必要がある。また、具体的方向性としては、全体としての保育料値上げということではなく累進性をきつくすることで、負担できる人が負担する、という考えが適当ではないか。第2子、第3子がいる場合は、軽減措置を担保すること等を忘れずに、最高額の部分の所得階層と保育料を上方に向けて拡大していくこと等が考えられよう。

7. 関連する重要な課題について

①保育方法の形式知化等を通じて、その価値、重要性を明らかにしていく。

そのための研究の充実は重要かつ早急に対応が望まれる課題である。また、これは、「保育の重要性のアピール」のみならず、保育の質の維持・向上との関係でも極めて重要ことである。実際、幼稚園に関しては、研究としてまとめられることも少なくないが、保育園に関しては少ない。その一因には、研究機関は文科省の管轄のものが多く、厚労省には系統的にまとめる、という研究機関がなかったということもあるのではないかと。

②また、保育所保育指針の位置づけは、現状、法律体系上必ずしも明確ではないと考えられる。保育の重要性の確認のため、位置づけの明確化やその向上を実現する。

③幼稚園・小学校等との連携、また、地域における場造りと巻き込み

小学校の先生、保健師、民生委員など、地域の人たちが保育について話し合える場を創っていくべきである。小学校と保育園だけでなく、幼・保・小の連絡会を作っていく。さらには、地域の子育て力に課題があると言われる今、もう一度ここで、小学校、幼稚園、保育園、町内会、祭りなどの地域、そういったひとつの地域のコミュニティが連携した協議会をつくっていかないといけない。具体的には、小学校の単位でつくるのが一番良いと考えられる（概ね、1小学校あたり、1保育園、1幼稚園くらいであろうか。）また、小学校の単位を核に、幼・小・保、地域、親が入った場をつくらうという意見を前提とした上で、もう少し小さな、幼・小・保の先生だけが集まる場なども必要であろう。

④望ましい幼保一元化の実現を図る。

冒頭で述べたように、教育と保育という用語により不必要な分断がなされることのないようにしていくべきとの考え方に立てば、この両者が「一元化」の対象となっている現状自体が問題であるとされよう。幼稚園関連施策、保育園関連施策は、あくまで手段であり、これらの区分に拘泥することなく、幼児期の子ども達にとって大切なものは何か、そのことを最優先に考え、より良い保育をしっかりと実現することを第一に考えていくべきである。また、文京区内には既に定員割れしている幼稚園もあり、一般に施設面では、幼稚園は保育園より基準も高い。地域で子どもの育ちを考えるのであれば、幼稚園もいっしょのものとして、独自の制度をつくっていくことも可能である。「文京こども園」の特区申請等である。こうした方向性で歩みを続ければ、保育園と幼稚園の先生同士の交流ももっと自然に進んでいくと考えられる。

⑤地域の中での保育園の役割

大人の都合でいろいろ考えることも多いが、本当はものを申せない子どもが主役であり、いい保育士さんがいて、いい食事が食べられて、地域と交流して、ということができるようになる中で、保育園を核として地域のコミュニティづくりをしていくべきではないか。但し、それに際しては、議論のなされ方が開かれたもので、関係する多くの人や、せっぱつまった親の立場も考慮したものである必要がある。開かれていてどなたでもきてください、という関係づくりが大事であろう。また、子どもの幸せのためには、親も幸せでないと良い環境で育っていけないので、保育園が親を気持ちの上も支えられるといいのではないかと。実際、園庭開放に来ている親も、園庭開放が目的ではなくて、悩みを聞いてほしかった、という事例があった。保育園が開いていくこと、来やすい環境をつくるのが大事であろう。公園でお母さん同士で話しても、同じ世代であり、同じ経験しかしていないが、保育園は多様な経験の宝庫である。経験に基づいた話をしてくれると説得力もあるし、不安の解消につながる。それはとても大切なことであり、親の精神が安定しないと子どもの精神は安定しないので、保育園の質の向上がすごく重要である。

文京区保育ビジョン策定検討委員会 ワーキング議事要旨

第1グループ（子どもの育ちを見通した豊かな乳幼児の保障）

平成18年11月17日（金）18時30分～21時

於：シビックセンター 地域振興会議室

出席者

大川米子委員、飯田恭委員、安達陽子委員、高橋修平委員代理、久武昌人委員、紀野美恵子委員

★飯田委員の提案に対して

○1頁：ゆたかな人間的ふれあいの保障—大人との基本的な信頼関係の確立

- ・「大人との基本的な信頼関係」とあるが、信頼関係は大人だけでなく、との子ども同士で培われている部分もある。大人と子どもの関係ばかりになっているということが問題としてあるので。子ども同士の信頼も大事では。ようは、信じあう力ということだと思う。大人も、子ども同士も、信じあえる力がないから、小学校に入ってもきれたりがまんできない、ということがあるのでは。
- ・就学時前の子どもの中に、大人との信頼関係とは別に、子ども同士の水平的な信頼関係が芽生えているのかどうかはわからない。
- ・生まれてから人格形成をする土台は、誰かとの信頼関係ということより、自分自身が人から認められている、受け入れられている、好かれている、生きていていいんだ、生まれてきてよかった、という自己肯定感だと思う。それがなくその上にくるしつけや学業がのっかっていかないということ。大人と、子どもと、というよりも、つらいこと、悲しいことがあっても、乗り越えられるような生きる力ということだと思う。
- ・生れ落ちて、泣いてSOSを出すしかない状況の中で、応えるのは大人しかない、というイメージがあったので、大人との・・・とした。虐待、ネグレクトの対極を語りたかった。
- ・グレーゾーンの子どもの場合は、親でなく、ほかの大人からの愛情でもよい。
- ・親からの愛情はある意味当たり前。他人からも自分は必要とされているということが認められることが重要。それがなく子たちが、いじめで耐え切れなくなって死のう、になってしまう。どこかで必要とされた、生きていていいんだ、と思えば、死ぬのも思いとどまると思う。そこを、言葉で表現するとどうなるのかなあ、と思う。
- ・佐々木正美先生の言葉にヒントがあるのでピックアップできるとよい。人を信じるためには自分を信じられないといけない。そのためには、まず、幼児期の場合は相手に信じてもらえて初めて自分も信じられる、ということ。そこは子ども同士でも培われていく、ということ。そこはぴたっとくる表現を探してみる。
- ・たくさんの人からたっぷりの愛情をもらう、ということだと思う。子ども同士、親、他人でも。
- ・それは勉強とか学力でない。しつけと信頼関係が勘違いされているところがある。
- ・三つ子の魂百まで、という言葉が誤解されている方が多い。3歳までにしつけないといけない、というように。そうでなく、そこまでに愛情をたっぷりかけないと、ということであるのが知られていない。
- ・保育園の親は、受容、愛情をかけることはいいが、しつけができていなくて、ほったらかしにすることがいいことだ、と勘違いしている人もいる。そこをうまく伝えたい。

○動物とのふれあい

- ・自分が子どものころは、鶏を飼い、餌をやって卵を食べる・・・ということをしていた。自分が世話をしないとくたっとなってしまう。動物の世話をすることによって、自分が親に育てられていることを肌身を感じる体験をした。今は、動物を飼えないマンションも多い。犬を連れてきている人が広い心になって、犬と触れ合う機会をつくるなど、親から与えたもらった愛情を動物に与える、ということができないか。ふれあう中で、してもらおう立場から何かをする体験が、自然とできるといい。お寺を活用するなどして。
- ・幼稚園ならスペースがあるので、幼稚園を開放して活用できないか。
- ・保育園も園によってはウサギを飼ったり、稲刈りをしたりしている。
- ・子どもが大丈夫な犬など、動物とふれあえる機会を、区民に協力してもらってつくる。
- ・3頁の⑤地域住民のところに入れたらどうか。
- ・与えられているばかりの子どもにしないで、与える体験を与えたい。自分のものを与える、という教育。うれしさ、大きな心。ふれあい。
- ・飼い主に断られることも多い→ペットを飼う人と親の間にコミュニケーションが足りない。コミュニティの力が弱いのでは。近所同士で話す機会が少ないから。公園ごとに、利用者の会があればいい。
- ・日常的に世話をしあげないと死んでしまう、というところでは、公園等で触れ合うというより、日常的に世話をできることが理想。死ぬということも大事。これをどう位置づけるか。小さい動物でも飼うのが一番。きょうだいが少ない中では特に。
- ・公園は、すべてが禁止が前提となっている。サッカーボールもだめ。三輪車、自転車に乗れる場所もない。
- ・教育の森公園では、土日におじさんがひとりいて、三輪車や自転車にみんなに乗っている。そういうところが増えるといい。
- ・家で動物を飼いましょう、ということは財政に関わるわけでもないのに、そういうことの意味をうたうということで、いれてもいいのでは。

○友だちなどとふれあう機会の確保

- ・自然な交流ができるインフラが不足している。犬を連れてきた人と子どもたちが自然に会える場所や、子どもたち同士が、年齢を超えた集団で遊ぶ中で、自然に社会の中でのルール調整を学んでいく機会が少ない。
- ・子どもが子どもらしくいられる場所が少ない。ひとりっ子が多い、習いごとなどがある等で年齢を超えた遊びになかなかならない。子どもは遊ぶ中で、ルールや転んだら痛い、といったことを学んでいく。そういう子ども同士の遊びがないから、いろいろな問題が起きているのではないかと思う。昔は、子どもが勝手に子ども同士で遊んでいたが、今は親が機会をつくらないと、つながらない。密室の育児になってしまう。小学校のお兄さん、お姉さんは塾に行っていて、夕方の時間帯は地域の中にいないので、余計に遊びの場が確保できない。自分が育ったときは遊んでいた道路が、今は1時間ごとに救急車が通るような道路になっている。30年前と今とでは子どもが育つ環境が変わってしまっているので、子どもが遊べる場の確保が重要。
- ・昔は、お寺の境内に入っても怒られないし、お墓の中がかくれんぼをしていた。近所、道路が遊び場で、いろんな人がみているので、子どもも安全・安心だった。そういうまちづくりがもう一度できるとよい。
- ・子育ては地域みんなでするもの、という意識を共有していかないと。

- ・車が生活を邪魔している。キャッチボールもできない。そういう場所を確保するか、区のもっている資源を活用してつくるのが大事。
- ・区民の意識調査をみると、子育て支援を重視してほしい、という回答は5位くらい。1位は高齢者支援、2位はリサイクル・環境。それでも前は5位以下だったので進歩した。近年、子育て層が転入してきているので、意識は変わってきてはいるとは思いますが、まだまだ子どもたちの存在感が全体としてうすいので、どうしても区民の目は違う方向にいつている。
- ・「文の京（みやこ）を子どもの京（みやこ）にしてほしい！」をスローガンにしてはどうか。子どもの京にしたら、全部が活力になっていく。まず、みんなで子どもを守って、育てていこうという気持ちにならなければ、何でもしちゃいけない、という禁止の方に、大人の視点からいうとなってしまうのではないかと思う。子どもが埋もれている、少し見方を変えていく必要がある。
- ・文京区は都心の割に公園がないわけではない。東大を開放してもらいたい。
- ・行ったら誰がいる、というのがないと親子だけで行ってもつまらないので、東大で遊ぼうデー、があってもいい。

○保育園の活用

- ・保育園や幼稚園に、地域の小中高生を派遣してはどうか。実習とは別に。異年齢の交流になるし、小中高生にとっては、自分が親になるときの準備にもなる。相互にいい影響が得られると思う。
- ・ふれあい増進計画。文の京ふれあい教室。
- ・総合学習の時間、家庭科の時間に組み入れればいい。保育園でも幼稚園でも、給食の手伝いでもいいので。一人っ子が多いため、いい機会になると思う。
- ・子どもだけでなく、母親も、赤ちゃんが生まれるまで抱っこしたことがないという人も多い。母親学級の一環として、保育園見学や体験学習が考えられないか。保育園を知ってもらうきっかけにもなる。
- ・妊娠しているときだけでなく、乳児・幼児といった子どもの年齢に応じて、親の知識・スキルをあげるための教室を設けたい。
- ・吹田市では、保育園に地域担当保育士を置いている。保育士がプログラムをつくり、1歳半児の半年の育児学級をするなど、地域の子育て力を育てる取り組みが非常にうまくいつているらしい。
- ・保育園には保育士、栄養士、看護師というプロがいる。保育園や幼稚園で、いろいろな講座を企画して開催してほしい。どこかのホールを借りるよりも保育園の方が行きやすい。保育の面でも。
- ・現時、健診は保健センターで行われている。それをもう少し地域を区切って児童館でやってはどうか。そこに併設されている保育園があれば、看護師や栄養士等が入って、離乳食を実際に食べてもらう、といった連携をしてはどうか。
- ・第4グループでも、離乳食のつくり方を教える、という講座の提案をしている。
- ・子どもが3~5歳になれば、食育について、食べるだけでなく、つくるを教えたい。危ないからやらせないだけでなく。親子いっしょに、父親参加も考えながら。保育園だけでなく保健所を使って、というプログラム・企画があるといい。家だと、時間がないところで手伝いたいと言われても、ちょっと待ってね・・・となってしまうので。親子のふれあいの場にもなる。
- ・お父さんも参加できる土日に開催してほしい。
- ・女性センターでもそういう企画があるが、なかなか人が集まらない→情報をみていない・届いていない。就学前の子どもがいる親は忙しくて。保育園の掲示板に貼るなどが有効では。

○子育て支援情報

- ・毎月が無理なら半年、3か月に1回でもいいので、区報といっしょに、子育ての情報紙をつくってほしい。小児科・保育園・幼稚園の紹介や、学校の校庭やプール開放の情報など。
- ・NPOがそういう活動をすればいいのでは。
- ・交流とかふれあいのソフトインフラとして、文京区での子育て支援の情報が必要。
- ・情報が流通するしくみと場がない。情報をもっているところとほしい人がつながっていない。つながらないから、興味がないとあきらめて、プログラムが終わる悪循環にある。ばらばらでなくまとまった情報が必要。
- ・1つのカレンダーに子育てイベントの情報が集まっているなど。創意工夫があるとよい。
- ・NPO等の活動として、3頁⑤地域住民の中に入れてらどうか。行政の取り組みとして、支援制度を設ける、とする。

○地域の子育て支援

- ・子ども110番のステッカーのように、子育てを支援しますよ！というステッカーがあるといい。そのステッカーが貼ってあれば、5分、10分買い物に、というときに、お願いしやすくなるかもしれない。
- ・家庭だけでなくお店にもあるといい。授乳できる場所やトイレを貸してくれるなど。子育てを助けてくれる、というお店をつくったら、そこからつながっていく。
- ・子育てパトロールを町会でやってはどうか。そこをきっかけになじみの関係ができれば。信用ができて、預けたりできるようなこともできる。
- ・町会も生まれ変わらないといけない。マンションの中でもコミュニケーションがない中で、新しい地域のネットワークが必要。結局は地域、日ごろのつきあい。

○安全の確保

- ・歩道のバリアフリーだけでなく、「電柱の地中化」を入れたい。神楽坂の商店街が活性化したのは地中化したから。そういうことに取り組んでほしい。
- ・車道のボーンエルフ化、バンクをつける、エス字の道路にするなど、スピードを自然に落とす対策を。そういうところを住民の生活道路でやってもいい。
- ・5時になると帰りましょう、という公園放送。
- ・都市計画を見直し、きちんしていかないと。高層ビルが多く、風の通り道がないため、ビル風がすごい。どこかで規制をかけないと。
- ・万年歩行者天国をつくる。住民の車しか通ってはいけない道路。播磨坂のところの横にもある。そういう道路を増やしてはどうか。そこを見直したら子どもが遊ぶ場所ができる。
- ・そういう広場をつくり、いろいろな情報発信をしたり、相談もできる、サービスに関する注文も聞いていけばいい。
- ・地域活動センターは、箱でしか使われていない。もっと定点的に活動する人がいてもいい。情報発信の基地に使うとか。
- ・文京区は公共交通機関の流れが悪いので、移動手段は自転車。自転車置き場があることが重要。

○職場

- ・文京区内の企業にいうのもかわいそうだが、育児休業がとりにくい。取って戻ったときに同じポストに戻れる保障がない。運用の問題。結局は取りにくい。ここは呼びかけしかできないが、そ

ういうことで載せればよいのでは。

○病後児保育等

- ・病後児保育を増やす、要件を緩和できないか。病後児保育のニーズは保育園利用世帯だけでないので、空きがあるときは、保育園に通っていないなくても預けられるようにしてほしい。現在、保坂クリニックは保育に欠けていないと使えない。
- ・緊急一時については、全保育園で実施という要望がでている。施設または人員の充実が必要。しくみの問題はあるが、枠を確保する必要がある。
- ・通常の保育と一時保育は、子どもの生活のリズムが違うので、保育の方法については慎重な対応が必要。
- ・文京区には0歳児の一時保育がない。もう少し前倒しで利用できてもよい。
- ・病後児保育については、既存のニーズに対応するだけの枠の確保を基本に、確保した枠に空きがあるなら、有効活用を図る、という視点になる。
- ・企業でも看護休暇を保障しないと、安心して働けない。両方の視点が必要。

○ビジョンについて

- ・現状がどうなっているか、というデータ集をつけてほしい。施設、サービスの配置状況、地域別の待機児童数、入園にあたって第1希望がかなった割合、保育園の職員の離職率などの指標について。次回よくなっているのかを図る基準となるもの。
- ・保育ニーズとそれに対して十分な供給があるか、という問題なので、これはこれで独自にしないといけないと思う。どこのワーキングに入るかわからないが、それは最後の整理の問題。
- ・実態調査については、本格的なものを5年に1回やりたい。生活の実態や育ちの状態など、子どもと子どもを取り巻く環境の把握。それとは別にニーズ調査が必要。
- ・協議会をつくるといい。
- ・調査は5年ではスパンとして長いかもしれない。2~3年間隔がいいかもしれない。親の世代も変わり、親の感覚も変わるので。

○保育料の問題

- ・現在の保育料の水準は適正かどうか。上限1,000万円は低いのではないか。保育園を利用している家庭の所得層はどれくらいなのか。一番高いランクの世帯が6~7割くらいなのではないか。
- ・保育園の入所要件は毎年厳しくなっており、常勤で働いていないと入りづらくなっている。パートは経済的な理由があって働きに出ているのに、そういう場合は利用できない。今、保育園利用の中心となっている層は、夫婦どちらかが働けば生計を立てられるのに。経済的に苦しんでいる人が保育園を利用できないと、そこに育っている子どもの育ちが一番危なくなる。
- ・質を確保するためには一定の財源必要で、そのためには現在の最高所得の基準は低すぎる。したがって、保険料を取れるところからは取った方がいい、という論点と、格差社会の芽生えに、保育の面でも対応する必要があるという論点があると思う。
- ・累進性の中で、払える層がもっと払うようにする。全体として値上げするのではなく、1,000万円を超えた人から多くする、という考え方。

第2グループ（子育て・親育ちの支援）

平成18年11月17日（火）9時30分～12時
於：シビックセンター 障害者会館B会議室

出席者

佐々木陽徳委員、深谷純子委員、藤田くる美委員、高橋修平委員代理

○サポーター制度について

- ・もともとは産じょく期のシッター制度をつくろうとしていたのが、相談員制度に変わったと聞いた。子育て経験者としては、子どもを生んだ後は猫の手も借りたいので、家事を手伝ってくれる制度もあった方がよかった。
- ・サポーター制度は、子どもを抱え難題をもっていてどうしたらいいかわからない、という人に相談員を派遣するもの。現在、民生委員などから16人のサポーターを養成している。家事援助等をするヘルパーではなく、心のサポートというところできた。現段階では、16人全員が稼働しているわけではない。

○子育て支援拠点

- ・本人が要請しない限り、サービスは受けられない。PRがもっと必要。区報でみつける人はいいが、気づかず、保育園や幼稚園入園前の一番大事な時期に、家庭で悩んでいる人が問題。働いていて保育園に預けようという人はいいが、実態は、そうでない人の方が多いので。
- ・子どもが生まれると新聞・テレビはもちろん、区報に目を通してある余裕はないと思う。
- ・子育てひろばのようなところで、くちこみがベストだと思う。
- ・渋谷の児童館のようなところが文京区にあるとよい。行けば、相談に乗ってもらえたりどうかななる、子どものことならなんでも集まれ、というところ。支援をしていると、そういうところがほしい。
- ・渋谷の児童館はすばらしいが、1か所だと遠い人は行くことができない、集まるのも大変。子育て支援という意味では、各保育園に子育て支援センターをつくるなどして、保育園をみんなが利用できるシステムにできるとよい。
- ・現在、健康診査は保健センターに行かないといけませんが、各保育園に医師に来てもらって、健康診査や、相談に乗ってもらう、というところもある。保育園でクラス担当の保育士とは別に、地域担当保育士を設けているところもある。保育園を利用していない方も保育士に相談に乗ってもらえる、そういう地域密着型の制度があることが理想だと思う。
- ・コンビには昔はものを売るだけだったが、今は、何の料金でも払えるようになった。保育園もそんなふうになるとよい。
- ・ただ、保育園は狭い。幼稚園は広いので敷地を活用したり、児童館は午前中は使われていないので場所を借りてもよい。武蔵野市では、歩いて10分で行けるところに、子育て支援センターをつくっている。1つ箱ものをつくって終わりでない方がよい。
- ・保健センターについては地理的に2か所しかないのが問題なので、保育園や児童館で健診ができないか。要配慮児童への対応にしても、地域が大事なのではないか。
- ・保育園、児童館にしても狭い。逆に、大きな拠点を1か所つくったらどうか、という意見だった。保育園を核とした子育て支援、という機能はすでにある。実際にやっているところでは、場所がないので、在園児が散歩に行っている時間を使うしかない、という話も聞く。
- ・幼稚園は学校教育設備としてうまく地域に配置されているし、教室が空いている。感染症の問題

があるので保健関係のものができるとい議論は残るが、入り口を別にするなど改修をして、最終的には大きな児童館設備をめざしつつも、現在できるものとして、幼稚園等の施設をうまく活用できないか。

○外国人籍、日本語を理解できない家族

- ・外国人のママとサークル活動をしているが。最寄りの児童館に、区民じゃない外国人のママと遊びにいてもいいですか？とたずねたら、地域の児童館を利用してください、と断われた。
- ・文京区は、児童館は区民で登録した人しか使えないためでは。千代田、新宿区など区民でなくても使える区はあるが。安全性の面も考えると・・・設備が狭いという問題もあるかもしれない。
- ・千代田も新宿も子どもが少なくなっている。文京区はそうではない、ということもあるかもしれない。設備の面からも。
- ・柔軟な対応ができる場所が必要。学校の統廃合の跡地を利用するなど。
- ・つながっている外国人はいい。区内をみると、インド系のお母さんで、うろうろして遊ぶ場所を探しているが孤立している人が増えている。まったく接点がないので、本当に孤立しているようにみえる。子どもも言葉の問題があって幼稚園に入れられず、という状況。経済的に豊かな人はインターナショナルスクールを幼稚園代わりにしているようだが、外国人の受け皿がない。

○高橋委員の提案について

- ・資料の中で、「NPOの活用にむけた検討」の部分が抜けてしまったので、短期的なビジョンのところに追加を。
- ・前回の話を踏まえて、子どもの子育てのときに困らないような長期的なビジョン、明日にでもどうにかしてほしいという短期的ビジョン、チャンスがあったらという中期的なビジョンにわけて項目立てをした。
- ・長期的ビジョンでは、1か所でもかなりのニーズに応えられる、核となる総合的な施設を新規に整備する、ということで、考慮すべき点として、どこからでも行きやすい、コミュニティバスではなく、デマンド型交通による移動手段の確保を入れている。
- ・短期的ビジョンは、窓口が一本で、複数の部署が関連していても、継続的に支援できる体制をつくる、というのがA。Bとして、情報提供すればすむ部分については、もっと情報充実させる。さらに、実際にはすべて区ができるわけでないので、民生委員を含めてNPO等民間を活用して、Aの活動等に重点的に補助、助成をする体制をつくる、というところ。
- ・中期的ビジョンのAとCは、チャンスがあったら進めてほしいという内容。Bだけはちゃんと進めてほしいところ。AとBは入れ替えたほうがいいかもしれない。
- ・短期的ビジョンのAは、今の階で点在している状態から、外国人に関わる窓口はここ、DVなら婦人相談に行けば全部わかりますよ、どこにいけばいいのかをはっきりさせる段階。
- ・次に、シビックセンターの中でワンフロア子育てに関するところ、のように窓口が一本化され、継続された支援ができるようになる、物理的にも窓口が一本化されるのが中期的ビジョンの段階。
- ・総合的な施設に、そういう窓口がある体制が、長期的ビジョンの段階。
- ・それ以外は、表を埋めるとはっきりしてくるのでは。

○緊急一時保育

- ・短期的ビジョンに、緊急一時保育の設置を入れてほしい。
- ・保育園は現在、定員がいっぱいの状態であり、さらに緊急対応となると、保育士を1人つけない

といけないが実際には欠員状態にある。園単位で今すぐに緊急一時ができるかという、保育士を新たに採用しない限りは、体制・設備的に難しい。看護師のいない園はどうするか、といった問題を考慮しないと、できるかどうか。

- できるかどうか、という問題とは違うと思う。
- 緊急一時対応は施設でしないといけないのか。子どもが一番落ち着く家庭に出向いて行く体制を整えるのではだめなのか。親が入院したときに家に来てもらって、病院にいる間をみてもらう。子どものケアだけでなく、家事の手伝いも含めて総合的にできるようなものの方が、緊急対応として適しているのではないか。緊急一時対応を保育園ですると、ふだん長時間保育を受けている子どもたちへの影響も出てくる。先生の対応の問題もある。
- 緊急一時対応が長期になるなど、保育園に通った方が子どもにとっていい場合もあると思う。子どもに何が適しているかを判断するコーディネーターが必要。窓口がばらばらではどこに空きがあるかわからない。
- いずれにしても、近くても子どもを連れていけないケースがあるので、どこかに定員が確保されていて、しかも連れて行ってくれる機能が必要。
- 全園対応をしても、待機児が集中している地域は、緊急一時も地域的なミスマッチが出でてくる。音羽に住んでいるのに千駄木に、ということもありうる。連れて行ってくれる人がいればいいが。
- 子どもにとって何がいいのか。知らない保育園に連れて行かれるのは不安だと思う。行くところがなくて家に置きっぱなしにされるよりは、ということもあるが。
- 病気の母親が隣の部屋にいるのに会えない。でも、家の中に知らないおばさんがいて、という状態が、子どもにとって安心できる環境かどうか。保育園なら相性のいい先生が誰かいるが、密室で知らないおばちゃんと2人きりで相性が悪いとなると、子どもは逃げ場がない。

○窓口の一本化

- 短期的にどこに窓口の一本化するかといったときに、区民の視点からどこがいいか、という問題。
- 窓口の問題はすべてにあてはまる。相談する第一歩のところがばらばらなので、とにかく一本化が必要。相談する人の立場から考えて、適切な窓口にする必要がある。子どもに関わることに關する窓口、DV、妊娠したときにどうするかなど女性のための窓口、といったイメージなど・・・。
- ここをはっきりするのは、区役所の中の人がかかっていないから、ということもある。
- 区役所の中身を分かっている、全体、横の調整をできる人が必要。縦割りのために抜けているところを埋めるため。単なる窓口の交通整理をするのでなく、抜けているところを把握して改善につなげていかないといけない。情報を総合して政策づくりにも役立てないといけない。
- 窓口がファミリーソーシャルワーカーである必要がある。その人自体に専門性がないと。そこがポイント。窓口の整理ということだけでなく、人材が必要。
- 世帯の変動で2階で手続きすることが多いので、そこにいろいろわかる人がいた方がいい。外国人の場合も、転入した最初のときに、どのくらい情報提供できるかが重要になる。そこを逃すと接点を逃す。そこを充実させるといい。
- 離婚届けを2階に提出する際に、ひとり親世帯のバックをくれるといい。余計なお世話、という人もいるかもしれないから、そういうものがある、ということがわかることが大事。区役所の壁にさしてあるとか。そういうものが届けのときだけでなく、あるといい。
- 実現するためのプロジェクトチームを立ち上げるべき。高齢者も同じようなニーズもっている、区役所全体の問題。区役所が横断的に、必要な情報を必要なタイミングで必要な人に提供できるしくみづくりを検討することが必要。

- ・短期的課題として、窓口の一本化、たらいまわしにされないことも重要であるが、緊急一時保育などの施設の充実の方が重要ではないか。
- ・窓口が一本化されていないと、ニーズが分散して、サービスを必要としている人が実際にどのくらいいるのかわからない、という問題がある。緊急一時はない、でもこういうサービスはありますよ、というところまでつなげるものが必要。今は、その人がサービスにつながったかさえもわからない状態なので、電話をかける側が一本ですむ、ということだけでなく、その人のニーズが満たされたかどうかを確認できるシステムが必要ということ。

○DV、虐待の被害にあっている母子

- ・シェルターがあっても公表できない。区内にはない？→NPOで区外にシェルターをもっているところがある。短期的には、緊急シェルターの確保と、借り上げている民間アパートの充実、ワンルームくらいのものがほしい。アパートはちょっと寂しい。
- ・虐待の被害を受けているかもしれない子どもたちを、保育園に通わせることができる体制が必要。現状は設備も体制も整っていない。年度の途中になるほど。そういう子こそ、生活の保障が必要で、区の保育を受けることによって救われると思う。
- ・ただ、虐待の問題だと24時間の体制や、送迎の問題がある。
- ・生活のできる場所となると、新しくつくらないといけない。DVの場合は生活の場所が必要。
- ・中期的には、中核になる保育園と24時間対応ができる施設が必要では。社会福祉法人を誘致するなど。親子分離するケースもある。子どもだけを離す場合、子どもが安全に生活できる施設が必要となる。こうした場合は、どうしても施設が必要。

○人材の育成

- ・文京区は人材を育成するいいシステムがある。それがあからいい保育サービスを提供できている。人材を長い間育成して、いいサービスを提供できるしくみが重要である、ということを書き込めないか。
- ・ファミリーソーシャルワークを専門とする職員を、少なくとも養成できる人材、福祉専門職を区の職員として採用するなど。
- ・小石川の保健センターの保健師さんは、非常にきめ細かな対応をして、ニーズに対応して調べたりしてくれる。保健師が守備範囲を広げていけばいいのでは？
- ・文京区の保健師は地区担当制。保健師は何人いて地域割はどうなっているのか？

○支援が必要な家庭

- ・家にこもっている人に対しては、違うアプローチが必要になる。
- ・自分でアクセスできない人に対しては、民生・児童委員など地域の支援が必要。
- ・健診時のきめ細かな対応。子どもを生んだ病院で健診を受けている人もいるので、小児科とのネットワークが必要。区外だと難しいが。
- ・転入、出生のときにアピールができれば。その次は健診。支援する側からの情報の積極的な提供が重要。
- ・そこをとりまとめる人がいないと、点と点がつながらないままになってしまう。ソーシャルワーカーがいて、民生委員から受けた連絡をつないで、どう対応したかという情報の蓄積をしていくと、区としてサービスに活用できるし、体制を考える上で参考になる。全体を見渡す人の配置がとてども大事だと思う。

○母子手帳

- ・障害があると、母子手帳の情報が役に立たない。療育機関等で、母子手帳に書いてないことを聞かれることが多い。そういう場合にも対応できる、必要な情報を蓄積できる、拡大版母子手帳があるといい。コピーして提出できるくらいのも。そこにさらに区の情報がついているといい。
- ・母子手帳は統一した規格になっているので、別刷りの添付分をつくってはどうか。詳細な記述ができるような。

○フレキシブルな対応

- ・診断書がないとサービスを利用できない、と言われる。子育ては一分一秒を争っているのも、もう少しフレキシブルな対応をしてほしい。
- ・そこをフォローしてくれる人が必要。問題点がみえている部分もあるので、そこを改善につなげられるようにするしくみが必要。
- ・緊急対応を可能とする裁量のある予算の確保も重要。

○子育て支援、子育て支援の核となる総合的な施設の整備について

- ・総合的な施設を置けば、それですべてのニーズが満たされるのとみなされるのはいかがなものかと思う。なので、ここを書くと同時に、地域ごとにアクセスがしやすいセンターも同時に整備してほしい。それも含めた、というところをきっちり書き込んでいかないと、総合設備ばかりが一人歩きしてしまう。それだけでは足りないと思う。区の特徴として坂が多く、乳幼児を連れて坂を上り下りするのは大変なので。最後は、設備の問題でなく人の問題が大きいと思う。
- ・エレベーターもないところに福祉センターをつくるとか、改修すればなんとかなるだろう、という中途半端になってしまう。
- ・地域の子育ての力を拡充するためには、箱も大事。がそれだけでなく、そこを埋める人材、ソフトの部分も書き込んでいかないといけない。人材育成の部分で地域ごとに実践をつくりあげていけば、それを総合センターに戻すこともできる。
- ・個人的には地域格差などが生じないように、やるのであれば、真ん中の総合センターがした方がいいと思う。
- ・区民のニーズと一致しているか、というチェック機能ももたせないと。そのためには地域割が必要では。
- ・そこまで踏み込まなくてもよいのでは。

○その他

- ・文京区だけでなく東京都のトレンドだが、子育てをする年齢は5歳遅くなっている。子どもを生む時期は30代に多い。その母親の年齢に配慮していかないと。20代の共働きと30代の共働きとでは、経済的な豊かさが違うので。イメージがずれているとミスマッチが起きる。
- ・現状を、データとしてビジョンにつけてほしい。区民にわかるような形で。
- ・以前からお願いしているが、過去数年間の関係事業の実績を、来年度の予算も含めて、出してほしい。そちらから全部、委員がわかりやすく提供してほしい。区長の諮問に対して、区はそれをどう捉えているのか。区がやっているところ、足りないなら足りないところを、まず区が示すべき。その資料がないのに議論はできない。

第3グループ（親の就労・多様な生き方の支援）

平成18年11月21日（火）18時45分～21時
於：シビックセンター 地域振興会議室

出席者

高橋修平委員、久武昌人委員、安江とも子委員、大角保廣委員、根岸かをる委員

○保育園のあり方

- ・現時点でそうでなくても、親が希望すれば保育園に入園できる体制をめざすということ、理念としてうたってもよいと思う。柳町こどもの森は、あまり成功していない、お母さんたちは評価していない、という噂を聞く。文京区は専業主婦嗜好は低いようだし、子どもが小学生になれば働きたい人は増えると思う。そういう意味からも、うたう必要があると思う。
- ・大きな理想だとは思ふ。緊急一時で預かる子どもは0～2歳児がほとんどだが、1歳児の発達はどうか、言葉が遅れているけど大丈夫か、0歳だとミルクのみが遅い、離乳食をどうしたらいいかなど、保育園からみると初歩的な質問をたくさん受ける。そういうことをなかなか聞く人がいないんだなあと思う。働いてない人にも保育園で対応していくことは必要。今の状況では難しいだろうが。
- ・危険が多いから公園で遊ぶのも親がつきっきり、家に帰るとマンションでは騒ぐなどと言われる。住宅事情も治安も悪くなっている。小学生でもひとりでお使いにやるなど生活上の訓練をすることが難しくなっている。こういうことでは子どもが大丈夫なのかと不安になる。親が育児に不安をもち、ノイローゼになるのも無理はない。そういう環境ということからも、親が希望した場合には、保育園を利用できることをめざす、というのも、すぐには実現は不可能でも、ビジョンとして理想を掲げてよい。
- ・親の多様な生き方を選択できるような社会をつくろうということだと思ふ。専業主婦も孤立せずに社会とつながりをもっていこうという。
- ・保育園に入っていないと就労できない。就労できていないと保育園に申し込めない。働きたい、という芽をつぶしている面があるので、そこから弾力化することが考えられる。
- ・認可園で対応して、待機児をなくすということ。
- ・空いているリソースをもっと活用して、保育園を充実するべきだと思ふ。幼稚園の空きスペースを活用するなど。
- ・空きスペースあっても、教育委員会ほうんといわないと思ふ。実際には空き教室もあるので、そういうところをもっと柔軟であってほしい。
- ・実際にはまるまる使っていない教室がある、というところはない。
- ・細かい事情はいろいろあると思ふが、ビジョンにそういうことが望ましい、考えるべきと入れてもいいと思ふ。直ちにそうすべき、ということではなく。活用するのは簡単ではないのはわかっているが、柔軟な工夫はできないか、という話。何かアイデアはないか。
- ・幼稚園、小学校ということだけでなく、区のもっている施設を有効活用する、という表現にしておきたい。
- ・文部省と厚労省をやめ、子どものための省をつくる、というのはいかがでしょうか。
- ・長時間労働をなくす、ワークライフバランスをとるように、と企業に呼びかけるより、中央政府に子どものための省を実現してくれ、と言う方が、実現の可能性はある。
- ・育児休業後に、年度途中でも保育園に入れるしくみも必要。

○文京区こども園

- ・2歳から幼稚園に通わせてもいいと思う。親の選択もいろいろできる方がいい。少子化、核家族化で親と子1対1の時間が多くなると、子どもにとってもよくない。慣らし保育的な意味でもいいのでは。
- ・区立幼稚園は3年保育がないので、3歳のときは私立、4歳から区立に入れている人もいる。
- ・保育園の希望者入所できるようにというのとあわせて、幼稚園も2歳からでもいいとしては。そうしないと、親の選択が偏ってしまう。
- ・幼稚園か保育園かという区切りになってしまうと。2歳児をどちらに入れてもいいのだが、現実的には、幼稚園で2歳児まで受け入れる施設的な設備、職員のノウハウはない。それより、やはり幼稚園でも保育園でも同じ子ども。幼稚園と保育園の垣根をなくして、同じ施設の中で育ちながら、長時間、2時までなど、親の生活にあわせて子どもの生活を保障できるのが理想。今の一元化の方法はよくないと思うが。幼とか保とかいう言葉自体をなくしたい。
- ・目玉の政策として、幼保一元化という既成の概念でなく、そういうことを実現する特区申請をすることを提案できないか。厚労省にも文科省にもしぼられないもの。
- ・そのくらいやってもいいと思う。言うのは簡単だが、制度を調べ、お金が途切れないようにしないといけないし、特区申請するにも知恵と時間が必要だが。
- ・財源措置もからめて考えていかないと実現性はうすい。
- ・そこはいろいろと工夫が必要。
- ・採用のときから両方の資格をもっている人を採用するようにしないと。人事異動を考えると。
- ・両資格をもっている人がほとんどだが、意識の問題がある。幼稚園教諭は保育園を低くみている。幼保一元のプロジェクトに関わってきたが、4・5歳は幼稚園児となるため、担任は幼稚園教諭だけで保育士は担任にはなれない。理由は幼稚園教諭として採用されていないから。保育士はいつも補助的な立場なのか？現実的にそうになっている。

○子育てひろばの拡充

- ・子育てひろば、3か所しかないので拡充してほしい。
- ・現在は3時までだが、来年度から4時までで延長する予定。4時だと、帰って夕飯の準備をするのにもちょうどいいということなので。子育てひろばのいいところは登録制なので安心。保育園、幼稚園の園長といった子育てのプロに相談できる。

○働き方

- ・パート志望者というのは、OJTのような気分でまずパートで働いて、という人も多いし、ドクター、マスターをもっているがためにかえって職業がない人もいっぱいいる。潜在的な希望を吸い上げることができれば、夫の扶養控除も減るから、所得税も増えて、地方税にもはねかえる。
- ・オランダなど外国ではワークシェアリングがうまくいっている。女性の職場の中でうまく活用することはできないか。
- ・フルタイムかパートタイムかということで待遇とかペイが決まらずに、同一労働同一正規というのがないと、正規というコンセプト自体がゆらいでいかないと、ワークシェアリングは実現しない。文京区で独自にそういうものを出しても悪くないが、文京区がひとつの産業をもっていればいいが、そうでないとなかなかできない。
- ・ビジョンとしては、劣悪な労働条件、長時間労働、低賃金重労働など、常識の範囲からおかしければ文句をいっていい。おおげさにいうと、人道に対する罪でもあるわけだから。

- ・フェアなバランス感覚が必要。子育てを最優先で考えましょうということは、目標としては正しい。が、それがドグマになってしまうと、親に対する支援をすること自体、長時間預かること自体がだめになってしまう。だが、それは個別の事情に応じて対応するのが正解だと思う。子育てを中心に考えましょう、というのはそのとおりだが、子育てしている親がある程度安定した精神状態、肉体状態であることがまず必要なのだから、それを支えるにはどうしたらよいかを考えると、おのずとバランスが取れるのでは。
- ・保育時間が長いというのは、親の生活にとってもおかしいのでは。
- ・長時間労働を解消しようという目標をたてること自体は間違っていないが、そこに本当にいけるのかな、というのがあっていくとしても10年、20年かかる。現実の中で何が一番いいのかを考えないと、変な対立がおきるし、長時間労働をやめさせよう、というスローガンだけになってしまう。企業の立場からいうと、生き残りをかけて正規社員を基本的には減らしてきたので、残った人の負荷は増えていて、早く帰ろうと思ってもなかなか無理。そのためにキャリアを半分あきらめて短時間労働を選択している女性は多い。そこまで踏まえてどう考えるかという視点も必要。
- ・変わらないかもしれないが、変わるべきだと言い続けることも重要。
- ・言い続けることはもちろん重要。ただ、現実を考えたときに、ちゃんと9時-5時で勤めて子育てに時間をかけないとおかしい、という議論になっていくと、無用な対立、論争を生む。
- ・今回は日本の社会はこうあるべきだ、ということを示すことにとどめて、それに矛盾しないかたちで施策の種を並べるとするのがひとつのまとめ方。深く考えるのもひとつの方向だが。
- ・長時間がどれくらいか一概にはいえないが、一般的には長時間保育は子どもにとってよくない。保育園で夕飯まで食べる夜間保育は、子どもにとってどうなのか、という思いはある。家族で一日の出来事を語り合いながら、楽しく食事をする方がいい。保育園で保育士と食事をとるのが毎日という生活で、子どもがどう育っていくのか危惧をもっている。そういうふうにしなないといけない家庭もあるのかもしれないが、それは、もう少し家庭的な雰囲気の中でフォローできる制度、しくみが必要。集団でみるのではなく。
- ・文京区の保育は7時15分までで、8時まで延ばそうということは検討していない。計画はないと思う。保育園の後、ベビーシッターに預けている家庭もあるので、夜間保育の需要はあるかもしれないが、少数と思う。

○情報へのアクセス

- ・セミナー等のPRは、区報のほか、ホームページ、チラシの配付、ポスター掲示などでPRしている→チラシは置いてあるだけでは目につきにくい。どこかの窓口にいけば、一括、一覧できるようにしてほしい。
- ・今回の公募委員についても、区報がなんとなく目に入ったから応募したが、他の情報といっしょに羅列されているだけなので、目につきにくかった。ホームページも頭の方であればわかるが。
- ・区の施設等に行けば分野別に整理されているなど、ホームページに載っているというだけだとわからない。アナウンスメントの仕方が住民に届きにくい。
- ・くちこみの組織をもっと活用すべき。メールを活用するなど。
- ・文京区の女性は、文京区で育った人が多い。ちょっとした立ち話、メールなどですぐに広がる。
- ・役所に関係のないネットワークを活用して発信しようと試みが、区民との距離を縮めることにつながる。広報や政策を認知させるための手段。メディア、草の根、くちこみなど。
- ・男女平等センターには、いろいろな企画のチラシがたくさん置いてある。面白そうなものもあるのに、そこに行ってはじめて知る状況。

- ・子育てというくくりで、何でも載っているペーパーがあるとよい。区からの情報、NPO等民間からの情報、必要な情報がぼんと入るものがあるとよい。予算はどうするんだ、という問題はあ
るかもしれないが、あったらいいな、ここをめざすべき、というところから、それを実現するた
めにはどうしたらいいか、というアイデアを出していく方向で議論したい。
- ・ファイルがあれば、メーリングリストに流したり、ホームページやブログに載せることも可能。
- ・安心メールのように「子育てメール」があってもいい。限定したグループの中で情報を共有する
しくみ。登録者に情報発信できる。そういうものが浸透すると、区の意識が区民にすごく伝わる
と思う。
- ・受け皿は別に。URLをつけるなどの工夫をすればいい。
- ・健診などの機会で、そういうものがあることをアナウンスするとよい。
- ・だれでも書き込めるかわら版のようなものも考えられる。

○企業の取り組みの支援・企業による社会貢献の支援

- ・企業に対する支援として、表彰制度は簡単だが、うれしいかどうか。
- ・企業はメリットがないと取り組まない。区が実施する中小企業向け子育て支援事業も、実際に支
援をしないといけないので、申請がない。
- ・区内の企業もそうだが、文京区民が行っている企業なら区外でも支援してもいいのでは。すばら
しい取り組みをしていて、区民がその制度を利用していたら通勤費を1万円補助する、とか。
- ・ありえなくはないが。区に法人税を納めている企業にメリットを与える、というのは頭の整理が
しやすいが、今の話は個人が対象になるし、不公平も生じる。両方やればいいが。
- ・第2グループで出た意見:子育てにやさしい店ということでステッカーを貼ってもらう取り組み。
トイレや授乳場所を提供するなど。企業による子育て支援活動の啓発になる。
- ・印刷工場のリフトが歩道を往来するので、子ども連れが歩けなくて困るという意見があった。そ
ういうことに対して指導はできないか。
- ・指導といわずに、子育てに配慮した事業所ですよ、という方向で、ステッカーを貼ってもらっ
てはどうか。指導と応援を組み合わせればいい。
- ・エレベーターの開くと閉まる表示が、メーカーによっても違うし、わかりづらく、ベビーカーを
押して乗る人は大変と聞く。人目でわかるように、シールを貼るなどマークを統一するのはどう
か。子育てにやさしいエレベーター。
- ・公共施設のエレベーターへの実施と、区内の事業所に協力を呼びかけていく。
- ・子どもを連れてくる人にやさしく、手伝おう、という啓発活動も必要。
- ・企業も安全なまちづくりをサポートする、企業もまちの構成員として、子育てのしやすいまちを
いっしょにつくろう、というコンセプト。
- ・事業所の8割が協賛してくれたら、素晴らしいまち。

○公園づくり

- ・区の人がハードだけつくってはだめで、周りに住んでいる人の公共財という意識をもってもらう
ことが重要という話を聞いた。まわりが清掃する、夜は浮浪者が入ってこないように鍵をかける、
剪定をするなど、住民参加で管理していく取り組みなど。公共財産、コミュニティは宝、という
意識の植え付け。
- ・公園に対する考え方が住民は希薄だし、行政はもっと希薄。新しくしようというときにモダンな
ものに変えようとするが、人の交流を頭に入れていないという話があった。公共の公園はすごく

大事。

- 市民の子どもに対する意識も大事。近くに児童遊園があるが、子どもの声がうるさいでしょ、という人がある。駐車場よりずっといいと思うが。そういう人があることにびっくりしたが少なくないかもしれない。その意識は少しずつでも変えられると思う。

第4グループ（保育機能の中核としての保育所）

平成18年11月22日（水）19時00分～21時
於：シビックセンター 地域振興会議室

出席者

菅原良次委員、飯田恭委員、森吉弘委員、久武昌人委員、吉田シズ子委員

○保育（養護）と教育

- ・幼稚園教育は保育と位置づけられているのにもかかわらず、教育ばかりが強調されてきた。
- ・幼保一元化園ができるときに、幼稚園教諭、保育園園長が入ったプロジェクトチームがあったが、なかなか保育園のことが理解されなかった。現在運営されているが、保育園の方がこれまで具体的な取り組みをまとめるようなことが少なかったこともありやむを得ない部分もあるが。
- ・保育園は日常の中で、養護と教育をきちんとしている、知的な部分も含めて。ということを書いていく必要がある。
- ・最後の関連図や、『「数・量・計算」等は遊びと生活を通し、子どもたちに概念的にも十分理解させることが可能である』ということで、養護と教育は不可分のものだという、これはすごく重要なので、ひとつのコンセプトとしても盛り込み、問題提起していただきたい。
- ・これは日本全体ですべき問題。保育ビジョンでこの考え方を示して、それをきっかけに、全体の議論に発展させていきたい。
- ・保育（養護）は、食べる、排泄、健康な体など、自分が生きていけるための基礎と、人間は社会的な動物なので人との交わり方を覚える、という人間としての基本的な部分。まず自分の生存を保障して次に社会性を身につけるといふこと。それを基礎に、個性を伸ばしたり、社会に貢献できる人をつくる、上に伸ばすようなことが教育。今は、教育の側面ばかりに焦点があてられていて、そこに危機感を感じる、ということ。
- ・これは基本的なコンセプトになる。文京区ならではのこども園制度、保育園と幼稚園の区別のないような制度をつくろう、という議論の基礎付けになる。
- ・乳幼児の養護と教育といったとき、乳児の養育をどのようにしていくかということも重要。人手を確保すること、食事の問題では離乳食をきちっとつくる、ということが非常に大事で、そこを今後もしっかり継続していくということ、もう少し深めていけるとよい。
- ・乳児の飲む・食べるに関しては、自分で食べるまでがかなり長い。特に0歳児は何をどう食べさせてもらうかが大事で、その子の身体が決まってくるという重要な過程である。なかよし保育園では既製品は使わず、手作りをしている。認証保育園なので財政的には余裕はないが、食には一生懸命取り組んでいる。乳児にとって食は本当に大事なので、そこをもう一本盛り込みたい。自立する前に身体をつくってあげないといけないので。
- ・献立は独自にこだわって取り組んでいるところは多いのではないか。
- ・つくっているところをどう子どもに見せるか、という工夫をしている園もある。文京区は設備の問題で、安全・衛生の面から難しいかもしれないが。そういった事例も参考になる。

○保育園のアピール

- ・幼稚園だと、研究としてまとめられる経験が多いが、保育園は少ない。いいこと、実践をたくさんしているが、文章化してまとめてという、周りに理解してもらうための取り組みが少ないという気がする。
- ・原因として。保育の研究機関は文科省にある。厚労省には系統的にまとめる、という研究機関が

なかった。

- ・公立保育園は、東京都公立保育園研究会があり、その中で乳幼児保育に関してなど、まとめてきているものはあるが、公立の中でまとめたものなので、外部には広がっていない。
- ・研究者の量、費用にも差があるのだろう。厚労省の専門官は福祉行政（事業）に関わる専門官が1人。文科省には、保育・教育内容を専門に調査・研究している専門官が数人いる。
- ・保育士が、保育士という名称になったのは最近。専門職としてこれまで認められてこなかった。幼稚園教諭は教諭として認められた中で研究活動ができていた。
- ・あり方検討会で議論したことも、この部分がかかり入っていて、国全体で保育内容についてしっかりした調査をした上で、何をすべきかを規定しようということだった。そのための組織をつくるべきで、国でできないなら、文京区から始めてみないか、ということだった。

○幼稚園・小学校等との連携、地域における協議の場づくり

- ・乳幼児全体のあり方をきちんと見定めていかないと、保育園は保育園、幼稚園は幼稚園、認定こども園は認定こども園と三つ巴のけんかになってしまう。文京区の就学前の子どもたちの育ち、子育てのために何が必要なのか、という視点から、保育・教育のあり方をきちんと位置づけていかないと、認定こども園は保育と教育の機能をもつと規定されているにもかかわらず、4時間の部分は教育、それ以降のはみ出す部分を保育と、保育と教育を分離した形で考えるようになってしまう。
- ・子育て・子育ちのために何が重要なのか、保と教をとっばらって議論できたらよい。子育て・子育ちをいっしょに考えましょう、というところから、保育・教育について考える場をつくりたい。
- ・柳町こどもの森も、保育と教育は時間で分離されたものではない、ということをきちんと保育ビジョンで位置づけていかないと、保育園では教育はしていない、という議論になってしまう。
- ・文京区でも、さらに民間幼稚園が認定こども園になることもあるかもしれない。そのような状況の中で、保育園だ、幼稚園だ、という議論をしてもしょうがない。文京区の子どもにとって何が必要かを打ち出さないといけない。
- ・ビジョンをつくるプロセスで、こういうふうに養護と教育について整理することを提案してみることも面白いと思うがどうか。それをひとつの提案にしてまとめたい。
- ・プレゼンの方向として。文京区内には既に定員割れしている幼稚園もある。幼稚園は保育園より基準も高い。地域で子どもの育ちを考えるのであれば、幼稚園もいっしょのものとして、独自の制度をつくっていくことも可能であろうと。そうすれば、保育園と幼稚園の先生同士の交流ももっと自然に進んでいくと思う。
- ・幼稚園といっしょに保育園でも小学校のプールを貸してもらった。子どもは大きいプールを貸してもらって本当にうれしそうだった。歩けば目と鼻の先の学校を使わせてもらえる、そういうことが地域でもっともっとできるとよい。
- ・文京区は狭いので、お互いのもっている資源を利用し合えるような雰囲気をつくれればいい。
- ・幼稚園の園庭を借りて運動会をしている保育園もあるということだが、区全体で子どもをどうしていくかという共通項ができれば、お互い利用し合う、ということにつながっていく、あるいはつながっていくような方向性をもった方がいい。
- ・小学校の先生、保健師、民生委員など、地域の人たちが保育を見あったり、話あったりする場が少ないと思う。施設そのものもそうだが、関わっている人同士のつながりが深まれば、お互いのしていることがわかったり、今後にもつながると思う。
- ・小学校と保育園だけでなく、幼・小・保の連絡会をつくらないといけないと思う。保育園の子も

幼稚園の子どもと同じ学校に行くので。どう子どもを育てるかを議論したときに、小学校や幼稚園、地域の町内会との関係をどうしようか、という問題は必ず出てくるので。そこをビジョンで打ち出さないといけないと思う。

- ・保育園での幼稚園や小学校とのつながりをレポート的にまとめてはどうか。それを広めていくという。
- ・巻き込むことが大事。昔子どもは地域で育てていたが、今はそれがなくなってきた、大人の論理だけになっている。もう一度ここで、小学校、幼稚園、保育園、町内会、祭りなどの地域、そういう一つの地域のコミュニティが連携した協議会をつくっていかないといけないと思う。
- ・小学校の単位でつくるのが一番いい。同じ学校に行くのだし。小学校の単位で将来どうするかを考える場がないとおかしい。
- ・ラフにいうと、1小学校あたり、1保育園、1幼稚園くらいだろう。認証を入れたらもう少し増えるだろうが。
- ・そろそろ地域が本気にならないと、というところ。子どもが少なくなってきたので、小学校で運動会をするもの難しくなっている。地域みんなで運動会をしている県もある。そういうことをしていくとまた違うかもしれない。
- ・小学校の単位を核に、幼・小・保、地域、親が入った場をつくろうという意見を前提とした上で、もう少し小さな、幼・小・保の先生だけが集まる場なども必要。
- ・教育委員会がこういうことについて、もう少しオープンに議論をしてくれるといい。教育委員会が子どもの育ちについて、イニシアティブをとってくれれば、本当はやりやすい。だれかがコーディネーター役をしないといけないので。
- ・第3グループとの議論ともしっかりつながる。そういう場をどういう形でつくるかはまた議論が必要だろう。

○保育料、保育の質

- ・行政に任せるのはもう限界がある。人手もいるしお金もかかる。ここをどうしていくかが大きい。言いつばなしではなく、保育料の改定も考えいかないといけない。
- ・保育料については、第1グループでも議論になった。累進性をきつめることで、格差社会の是正も視野に入れて、かつ、保育の質を文京区の財産として維持するために、負担できる人は負担をする、ということを盛り込んだ。
- ・所得の高い人はもっと払えるはずなので。文京区は最高所得の人が多いし。
- ・第4グループからもダブルパンチで提案したい。
- ・保育料値上げということではなく、負担できる人が負担する、という考え方。高額所得者は所得に見合う負担を。
- ・第2子、第3子がいる場合は、軽減措置をきちんとしないとややこしいことになる。
- ・そういうことをするためには、保育園は子どもを育てるための地域の核であり、質が高いということを所得の高い人に理解させないと。利用料だけ上がって保育園には相変わらず入れない、と言われてしまう。保育園の質をあげていくことも重要。
- ・確実に保育の質をより一層高めるために必要、ということだと思う。
- ・公立保育園は一般財源化されているから、保育料が上がった分の使い方として、きちんと保育にまわるようにしないといけない。会計のしくみをしっかりつくらないと。
- ・公立保育園運営費は一般財源化されてはいるが、これまでの積算基準どおりでしているのだから、削られているということはない。逆に削れないというところ。

- ・乳児の場合は安くし、幼児を高くして、つまり、乳児の分は後払い、という考え方もある。乳児の場合は、親も若く所得が低いので。
- ・保育の質をどういう形で平均化していくかを、第三者評価もあるが、もう少し具体化できるようなものがあるとよい。園によって差が出ないように。苦情解決のシステムを園で対応するなど、あわせて考えていかなければいけないと思う。
- ・保育の質を高めるために何が必要かということ、別で議論してもいいと思う。研修制度も含めて。そうしないと、保育料の議論とつながらない。
- ・文京区の子どもの育ちの質を考える上では、公立・私立にかかわらず、というところはきちんと押さえないといけない。非営利法人については共通で確認する必要がある。そうしないと質は高まらない。

○地域の中での保育園の役割

- ・これまでは大人の都合でいろいろしてきたが、本当は物を申せない子どもが主役。子どもたちの立場に立っていいものをつくっていかう、ということが大前提だと思う。大人の都合は子どもにとってはどうでもいいこと。いい保育士さんがいて、いいメニューがあって、いい食事が食べられて、地域と交流して、ということができるよう、需要が多くなる中で、保育園を核として地域のコミュニティづくりをしていきたい。
- ・議論のしかたが開かれたもので、地域の人とせつぱつまった親の立場も考慮したものであればいいと思う。
- ・開かれていてどなたでもきてください、という関係づくりをすることが大事だと思う。
- ・子どもの幸せのためには、親も幸せでないと、いい環境で育っていけないので、保育園が親を気持ちの上も支えられるといい。
- ・園庭開放に来ている親も、園庭開放が目的ではなくて、悩みを聞いてほしかった、という事例があった。保育園が開いていくこと、来やすい環境をつくることが大事。
- ・公園でお母さん同士で話しても、同じ世代だし、同じ経験しかしていない。保育園は経験がある。経験に基づいて話をしてくれると説得力もあるし、不安の解消につながる。それはすごく大切なこと。親の精神が安定しないと子どもの精神は安定しないので、保育園の質の向上がすごく重要。
- ・家庭で子どもを育てている人が半日くらいきて、離乳食体験をするなど、よその子どもをみて学ぶ、そういう開放をしていくことが、保育園の使命だと思う。
- ・地域に開かれたという意味では、現在保育士さんにアンケートでご意見をうかがっているの、それを受けて、具体的な検討ができると思う。
- ・もっとクラス会のようなもの、月1回くらい先生と親が議論できる機会ができるとうい。そういうところから、みんなで子育てをする雰囲気につながっていくと思う。
- ・保育園と父母会の共催ならできるのでは。
- ・父母会にもよるので、はじめは少し強制的なような形で始められないと思う。話すだけでもほかの親の経験を聞くことができる。

子育てしやすいまち アンケート 自由意見

No.	地域	性別	年齢	職業	子どもの年齢	1. 子育てが大変、つらいと思う時	2. 子育てしやすいまちにするためのアイディア
1	本郷5丁目	女	30	主婦	2歳	<p>風邪をひいてしまい、母乳のため薬も飲めず、夜中まだ何回か授乳してた時。</p> <p>新生児の時は、ちょっとしたことが気になり不安だったが、すぐ近くに相談できる人がいたので助かった（実家の母）。</p>	<p>子育てで広場、児童館等遊べる場所があり助かった。でも、外での遊びとなると公園が小さく遊具が少ないのが残念。</p> <p>幼稚園は、地元（近く）が良いのだが、抽選でなくなると良い。</p> <p>勉強のためだけでなく、身体作りもあるので、日当たりもよく、園庭で遊べるのがよい。</p>
2	小日向1丁目	女	38	主婦	2歳	<p>子育てが大変つらいと思ったのは、自分が病気になったり、子どもが重い病気にかかったりして、育児に支障がでた時。我が家は、夫婦ともに実家が遠方で、両親の援助も望めないで、子どもの出産から約2年間、2人だけで何とか子育てをしてきた。私が病気になった時は、育児に支障をきたし、夫が会社を休む等して、何とか乗り越えてきた。区の緊急一時預かりは、2ヶ月前に登録が必要だという事で、急な発病には、対応できないし、民間のベビーシッターは費用がかかると聞いている。今は、まだ子ども一人なので何とか頑張れるように思うが、今後、第二子考えた時、このまま何の支援もなしに子育てができるのか、とても不安である。特に出産前後に上の子が、確実に保育園等に入れるのか、産じょく期の育児、家事、自分自身の心身のケアについて、とても不安を覚える。</p>	<p>～私が望む子育て支援のための公的施設～以下の項目にあてはまる施設を文京区在住者が、自転車、バギー、バス等で行ける場所に2～3カ所設置する。 ①幼児期（0～1歳）、2歳以上の幼児、小学生以上の子どもと年齢別の部屋を設置。 ②ハイハイ等するので、乳幼児が遊べる清潔で安全な部屋づくりとおもちゃの設置。 ③冷暖房、オムツ換え、授乳室、ミルクを作れる設備、昼食ができる施設、乳幼児用ベッドの設置等の環境充実。 ④自転車、バギー置き場の充実。 ⑤施設そのものが、子育て支援の場として機能し、レクリエーションやセミナー開催を企画し、情報発信の場となる。 ⑥子育てについて相談にのれるカウンセラーを常時置いて、育児相談ができる場を作る。 ⑦緊急時の子どもの一時預かりを、当日でも受け入れできるような実施。 ⑧子ども達が外遊びできるように、野外に遊具、砂場、水遊び施設を作る。 ⑨1歳時、2歳児対象の育児サークルをつくる。 ⑩母親達によるイベントや催し物の運営における活動の場の提供。 ⑪施設は、年中無休で、どの区の人でも使用できる。</p>
3	小日向1丁目	女	33	主婦	出産予定1歳	<p>体調をくずした時。子どもは、ようしゃなく色々要求しているの</p>	<p>文京区ママ達の現状。「最近どこで遊んでるの？」幼稚園入園までの子どもと初めて外に出て、そろそろ他のママ達と育児についての情報交換をしたいと思う大切な時期である。その頃に、子どもを連れて行っても良いなと思える所は、シビックセンターのびよびよ広場くらい。でも、スペースは狭いし、混んでいて、2歳くらいの子供達も走り回っていて、わざわざ行きたくなる程ではない。他のママとゆっくり子育てについて語れて、0歳児も赤ちゃんも静かにお昼寝できる広いスペースがある施設があればなあと思う。次に1歳児からは、ハイハイやヨチヨチ歩きが始まる。次の児童館は、どこも床が汚いので、ハイハイは無理だと感じる。しかも小学校の終る頃に学童の子ども達も来るので、1歳児の遊び場はなくなり、帰らざるをえなくなる。西方の子育てひろばは、終園が3時なのでもう少し、延ばして欲しいし、施設を新しくして欲しいと感じる。という事で、文京区のママ達の中には、少しでも安全で、安心、きれいで落ち着ける場所を求めて、他区の施設にまで足を運ぶ人が少なくない。新宿区、豊島区、千代田区等の施設は、前述の項目をほとんど満たし、子育て支援の場として、とてもよく機能しているように思う。しかし、最近では他区からの受け入れに差別化を図る所が出てきている。遊び場とは、単なる子どもを遊ばせるだけの場ではなく、育児に行き詰ったママ達の息抜き場であったり、大切な育児情報の交換の場でもある。文京区にも、良い施設はあると思うが、本当に充実していれば、わざわざ遠い他区にまで足を運ぶママ達は、いないと思う。今ある現状の施設をもう一度見直して、他区に負けない子育て支援の場をママ達の声も取り入れて作ってほしい。</p> <p>他の地域に比べて公園の汚さが、目につく。私は、わざわざ車で別地域の公園に行っている。</p> <p>水道端図書館前の道路の傾斜がきつく、ベビーカーはもちろん子どもも歩きづらそう。</p> <p>最寄駅「江戸川橋駅」のエレベーター設置が中止になりとても残念。子連れでも駅使用がとても苦痛である。これは、子どもも大人（高齢者）にも優しい街に必要な条件だと思う。</p>

子育てしやすいまち アンケート 自由意見

No.	地域	性別	年齢	職業	子どもの年齢	1. 子育てが大変、つらいと思う時	2. 子育てしやすいまちにするためのアイデア
4	小日向2丁目	女	39	主婦	2歳	まず、最初につらいと思った事は、自分自身の体調が悪くなってしまった時。持病の腰痛（ギックリ腰）がひどくなり、全く動けなくなってしまった。その時は、実母が比較的近くに住んでいる為、全て母にお願い出来たが、もし、お願い出来ない状況にあったらと考えるととても不安になる。 1歳半～2歳くらいの間は、上手く意思疎通が出来ずに、とても苦労した。泣きわめく事が多く、どうしたら良いかわからない日が続いた。	3年保育が主流の現在、区立の幼稚園は、2年の所が多い事がとても不思議である。それに加えて、3年幼稚園でも（小日向台町幼稚園）、入園出来る人数が少なく抽選、ほとんどが兄弟（姉妹）枠で埋まってしまうというのは、疑問に思う。区立ならば、希望すれば確実に入園できる制度に是非してほしい。保育園についても、100%入園出来る事が理想である。あとは、一時預かりについて（一度も利用した事はないが）もう少し低料金で預ける事が出来るとうれしい。
5	本郷5丁目	女	38	主婦	1歳	主人と3人家族のため、助けをお願いする人が近くにいない。自分の体調がよくない時などは、とても大変に感じる。	
6	小石川3丁目	女	42	主婦	2歳	ベビーカーで移動が多くなり、歩道を通る時に歩道が傾いているので、とても押しにくく大変である。できれば、平にしてほしいと常々思う。 公園で遊ばせたいと思っても、そこを家（？）のように使っている方が多いので、なかなか遊ばせることができない。	幼稚園など、園庭を開放して下さる所が多く、とても良いことだと思う。
7	水道2丁目	女	33	主婦	2歳	今は、いろいろな情報が手に入る時代。その中で、どの情報を自分の子育ての中に上手く取り入れていくかというのが難しいと思う。子どもを育てるということは、決して楽な事ではなく、毎日、毎日がこれでいいのかと考え、悩みながら子育てしている。自分も一緒に毎日成長しているような気がする。	近くの江戸川公園にある砂場であそんでいるとうんちのような、おしっこのような臭いが強くなった。他のお母さん達もそのような話をしていた。日光があたっていたので（砂場）それで強く感じたのだと思う。夜になると野良ねこがトイレがわりに使っているらしい。子どもが砂場で遊ぶので、それ以来砂場遊びはやめた。他の公園（家からは遠い）では、砂場にネットをはっている公園があった。やはり、子どもを遊ばせられるいい環境を整えてほしい。
						育てて、はじめて直面する問題は、私は、完全母乳で育てており、6ヶ月過ぎから離乳食を始めたが、なかなか食べてくれず、これでいいのか～と悩んだ。でも、いずれは食べるようになる。今は、2歳。まだ、母乳を飲んでいるが、食事もありと食べてくれる。	
8	本郷4丁目	女	33	主婦	1歳	病気をした時、どう対処していいか迷う事がある。	地域のおじさん、おばさんなど声かけをして下さると助かる事（気分が楽になる）があるので、お母さんからも積極的に話しかけるのが良いと思う。子どもの遊び場に時間のある地域の人が入れる場があればいいと思う。安全管理の面で難しいかと思うが・・・。
9	本郷4丁目	女	41	無	2歳	離乳食や食事を食べてくれなかった時。 近所に家族がいないので、子どもを預けられず、歯医者や美容院など自分の用事を済ませることがなかなかできない。	子育て用品のリサイクルショップの大きな店があればいい。 銀行や店など段差をなるべくなくす。
						街で出会う人々の意地悪な言葉や態度（ベビーカーを邪魔そうにしたり、露骨に嫌な顔をされる。勿論、優しい言葉をかけてもらうときもあるが）。	少子化といいながら、保育園の待機児童が多すぎる。枠をもっと増やせないのか。
						病院の出産費用の高額さ。50万円かかった。	各町内会で、幼児対象だけではなく、乳児も対象にした催し物も行ってほしい。母子で一番孤独な時期が就園前の時期なので。 医療助成の対象を小学生まで引き上げて欲しい。
10	本駒込4丁目	男	24	会社員	0歳 1歳	年子で下の子どもは1ヶ月なので今はよいが、これから先は大変。いろいろな事を考えてしまう。また、今は働けないが、父親がお店を一人でやっているので手伝いたいと思うが、今のままでは不安である。今預けている子どもを半年後も預かってもらえれば、大変幸せと思う。	今、保育園に通っているが、大変良い環境で良いと思う。
11	目白台3丁目	女	39	主婦	2歳	子どもを出産するまでは、無事に産まれれば“ゴール”のような気持ちがあり、そこから大変な事が“スタート”するとは考える余裕がなかった。今、娘は、2歳9ヶ月になり、だいぶ楽になったが、2人目を産む予定はない。子どもは嫌いではないが、かわいいと思えるのは、自分自身の精神状態がベストの時、病気の時看病していて、もし、自分が妊娠していたり、下の子がいたら自分でやる自信がない。自分の年齢を考えると体力的にも自身がない。近所に児童館、公園もあり、恵まれているが外出（電車に乗って）は、子連れは大変だ。	電車に乗って外出する時、サポートしてくれるボランティアがあれば、子連れでの外出が楽しくなる。自分が買い物している時、近くの公園で1時間ほど遊ばせてくれるなど・・・。

子育てしやすいまち アンケート 自由意見

No.	地域	性別	年齢	職業	子どもの年齢	1. 子育てが大変、つらいと思う時	2. 子育てしやすいまちにするためのアイデア
							親が食事をしている時、子どもが遊ぶ場所（江戸川区西葛西にあるSKIPKIDS）のような所が文京区にもあれば、息抜きできる。
							公的補助も大切だが、主人の帰りが早い方が精神的に楽。育児休暇を取得するのは、まだまだ少数だが、取得しない人が出世できないなど、考えが変わらなければ少子化は止まらないと思う。
12	白山1丁目	女	29	主婦	2歳	駅構内に階段しかないところが多く、ベビーカーでの移動が大変（駅員さんで手伝ってくださる方はほとんどいない）。	児童館や保健センター等、子どもの集まる施設をもっと明るい雰囲気、きれいにしてほしい。
						駅にせっかくエレベーターが設置されていても、若い方や健康そうな方々がたくさん乗り、ベビーカーだと乗れず、次が来るまで待つことになることが多い（嫌な顔をされることもあって、優先して下さる方は減多にいない）。	公的な証明書等を発行してくれる出張所を復活させてほしい。
						歩道に停めてある自転車が邪魔でベビーカーで通りづらい。子どもを歩かせても前後からくる自転車の人をよけるためにいちいち立ち止まらなくてははいけないし、危ないので迷惑な場所に停めてある自転車をもっと頻繁に撤去してほしい。	乳児健診や歯科検診を受ける保健センターを選ばせてほしい（せめて、初回に選び、その後は同じでもいいので）。
							文京区も他区のように園バスを走らせてほしい。
							区立幼稚園の保育内容を充実させ（特色を持たせ）私立と比較できるくらいにしてほしい。また、保育時間終了後も一部私立のように有料でも預かり保育や課外保育（英語や体操等）を実施してほしい。
							私立と区立幼稚園の保育料の差が大きいので、私立にもっと公的補助をしてほしい。
							公園内の見まわりを昼間でもしてほしい（遊具の上で寝ている人やお酒を飲んでいる人がいると子どもを遊ばせられないので）。
							公園の砂場の衛生管理をしてほしい（ネットが張ってあってもあまり効果がないので）。
							小学校の学区をなくしてほしい。
							子どもを遊ばせながら、親はランチやお茶を楽しめる場があれば、とても嬉しい。
							せっかく、「文京区おかいもの券」が支給されても、子育てに関係ない物を買うために使ってしまうため、地元商店街の地域振興に貢献するためのものという感がある。それならば、子育て世帯を直接減税した方がいいのではないか。
13	目白台2丁目	女	27	自由業	0歳	自分の時間がほとんど、とれなくなったことが一番つらい。どこへ行くにも子どもと一緒になので、時々自分一人の時間が欲しくなる。	区役所内びよびよ広場に行くための手段がバスしかなく、そのためにたまにしか行けない。児童館の「0歳児あつまれ！」も週1の午前中だけなので、子どもの朝のお昼寝にぶつかったり、家事をしているうちに終わってしまったりでなかなか参加できずにいる。びよびよのような施設をもっと各所に作ってほしい。子育てアシスト券も、豊島区に近い我が家は、ベビー用品を池袋で買うので活用できていない。金券よりも施設を充実させてほしい。もしくは、図書カードやクオカードのようなどこでも使える金券にしたいと嬉しい。
						少し混み始めた電車やバスにベビーカーで乗れないのも大変である。荷物が大きい上に子どもを抱えてベビーカーを持つのは体力的に厳しい。たまに「狭いだから乗るな」みたいなことを言われることもあり、悪いことをしていないのに肩身の狭い思いをすることもある。	
14	目白台3丁目	女	35	主婦	2歳	初めての経験なので最初は何から何まで大変だった。今は育児に関して色々な情報があるが、情報がありすぎて迷ってしまうときもあった。両家の母には事情があり子どもの世話を頼めなく、主人は自営業なので朝から夜中過ぎまで仕事なので、本当に一人で子育てをしている状態だった。	幼稚園、保育園とも、その場所により入園できる子どもの年齢がまちまちなので、全部同じにしてくれたらいいと思う。家の近くに入園させたい良い幼稚園があっても、2年保育、3年保育などの理由で行けなくなってしまっている。
						辛いなぁと思ったのは、自分の時間がなかった事。2歳になった今でも自分の時間はほとんどないが、乳児の時は母乳の時間などがあり、なかなかゆっくり出かけられなかったが、最近は子どもと一緒に出かけられるようになり、だいぶ気持ちが楽になった。	子どもの一時保育や保育ママなどの制度があるが、事前に予約、登録が必要なので、急に今すぐ預って欲しい時にどこにもそういう場所がないので困る時がある。

子育てしやすいまち アンケート 自由意見

No.	地域	性別	年齢	職業	子どもの年齢	1. 子育てが大変、つらいと思う時	2. 子育てしやすいまちにするためのアイデア
						後は、経済的な事が大変。これから大きくなるにつれ、もっとお金がかかるので、頭を悩ませている。	公的補助があればあるだけ助かるが、無料の親子体操教育やリトミック教室などをやってくれるといい。幼稚園や児童館でもやっているが場所が狭いので、広い会場などで月1回でもしてくれると他のお母さんや子ども達と知り合えていいと思う。
15	水道1丁目	女	31	主婦	0歳	実家が遠いため、子どもが病気の時や自分の体調が優れない時の不安が大きい。近くに頼れる親類がいない。 現在は子どもが一人なので何とかなんとと思うが、2人目を産むことは慎重になってしまう。	子育てしやすい町というのは、環境設備、公的補助などいろいろあるが、最終的に子どもや家族が安心して暮せる、犯罪のない町という事だと思う。幸いな事に今までそういう危険な目にあつた事はないが、色々な話を聞くので、心配になる事がある。
16	春日2丁目	女	34	主婦	2歳	あまり子育てで辛いと思つたことはない。主人が育児に協力的なので、家族一緒に楽しみながら子育てしている。ある程度、旦那様も育児に協力すれば、神経質になるお母さん方も色んな負担が軽減されるのではないだろうか。	まず、東京でよく見かける「歩きながらのタバコ」を廃止すべきだと思う。
17	小日向1丁目	女	36	主婦	1歳	自分一人で問題を抱え込んだ時、相談する相手（グチを言うだけでも）や時間がないと、辛くなる。	児童館等の場はとても素晴らしいと思う。こういったところにボランティアでいらなくなった（自宅での）玩具を提供すればいいと思うが、受け入れの対策がまだされていないようだ。
18	本駒込2丁目	女	38	主婦	0歳	当然の事だが、自分の時間がなくなる事。 核家族で夫が仕事で帰宅が遅く、子育ての負担が自分（妻）にのしかかる時。 体を壊したため保育園への入園を申請したが、枠が限られており恒常的に付近の保育園を利用する事が難しいのが辛い。 子どもが熱を出した時など外出できず、買物や家事など手伝ってくれる人がいないのが大変である。	江戸川橋の駅を利用している。役所のカだけではどうにもならない事は承知しているが、エレベーター設置のために何か働きかけをしていただけたら、と思う。子連れだけでなくお年寄りの方にもやさしい町であるために、必要なものだと思う。
19	向丘1丁目	女	29	会社員	0歳	仕事を休む事が難しい時。子どもが風邪をひいていてお世話を頼める人がいない状況の時（身内が近くに住んでいないため）。 仕事復帰する際に、一人で登録や手配をしたので、相談できる人がいなかった事。	保育園入園枠を増やし、核家族世帯の子育ての負担を軽減してほしい。 病気の時など、家事を手伝ってくれるヘルパーさんが利用できるようになれば有難い。
20	春日2丁目	女	37	主婦	2歳	子育ては大変そう・・・大変・・・と感じた事はあまりないように思う。確かに体力的には疲れたりして一日休みたいと感じるときもあるが、子どもといると、野菜を多く摂ろう、明日も早いからと、夜遅くまで起きることも少なくなった。でも子どもを持って近頃感じることは、「子育てって大変でしょう？」と言われる事（周りの人、近所の人）。その言葉を聞くと「はあ～」と逆に疲れてしまう。「子育てって楽しいでしょう!!」この言葉だと「楽しい～」と元気になると思つてみたり。メディアでも「子育てって楽しい」ってゆうニュースばかりだと、人間は単純なので、世間もそうなるっていくのでは、とふと思う。	区立の保育園に入っていないので、認証保育所を利用しているが、料金面と交通の便が悪いので、できれば待機児童を解消してほしい。 病児保育ルームを利用している。病気回復期にとっても助かる。もっと増やしていただけると需要が高まると思う。 公的補助はベビーシッターさんなどを利用しやすくしていただけたら、と思う。 世間ではいかに長く保育をしてくれるところが（預り保育）いいと言われているようだが、本当にそうなのか。疑問に思う。もちろん経済的な事もあるが、家族のつながりが希薄になっている今、「みんなで家に早く帰って家族団らんしようよ!!」と思うのである。「手作りの料理を食べようよ」と思うのである。地域でお父さんの交流会、おじいちゃん、おばあちゃん、子ども達の交流会、使用されていない児童公園を菜園にしたり、おひも掘りをできたりしたら、とっても楽しそうではないかと思う。埼玉などでは保育園とご老人の施設が一緒になり、子ども達とご老人達の交流の場がある。もちろん様々な問題もあると思われるが、文京区にはご老人の方々も多くいらっしゃる。おじいちゃん、おばあちゃんからわらべ歌を教えてもらったり、子ども達は肩を揉んであげたりなどなど、お互いが生きる力といたわりの心が学べるのではないかと思う。現代の子ども達は与えられるものが多すぎて、もちろん当たり前のようにもなっている。心が置き去りにならないように、将来自分からご老人や障害を持った方々に手をさしのべられるような、やさしい大人になれるように、小さな頃からの経験が大切なのではないだろうか。*おじいちゃん、おばあちゃんは（自分たちの）何か買ってくれる人、おこずかいをくれる人ではなく。

子育てしやすいまち アンケート 自由意見

No.	地域	性別	年齢	職業	子どもの年齢	1. 子育てが大変、つらいと思う時	2. 子育てしやすいまちにするためのアイデア
							子育てで広場、ピヨピヨも、もう少し広くスペースをとり、交流の場を持ちたい。そこで母親たちは学べる事も大切だ。そして具体的に訓練を受けた人がまた地域の子育てママとして、託児のサポートをしたり、相談にのる、遊びの提案など、社会にも参加出来ると嬉しい。
							区立の幼稚園、是非3年保育にしてほしい。
							文京区の禁煙も（区全体）お願い出来たら嬉しいなあと思う。
21	小日向1丁目	女	27	主婦	0歳 2歳	近年では核家族が増えてきているのに、区の対応はできてなさすぎると思う。私は2人目がおなかの中にいる時に文京区に引っ越してきた。家は、主人も私も実家が沖縄、千葉と遠いため、あまり手伝いにこれる状況ではないので、せめて風邪をひいた時にも子どもを見てくれたりするところはないかなと思ひ、2人目を産出して出生届を出すのに区役所に行った時の事。まず区の職員何人かに「こんな小さい子どもなのに外に連れて歩いて！」と言われた。来たくて来ているわけではないし、どうしてそんな言い方を区の方に言われなければならないのか疑問だった。その後、風邪の時に見てくれるようなものはないかを聞いたところ、風邪になって初めて預ってくれる施設に行き、登録手続きを踏む、といった内容のものを聞かされた。子どもがいて具合が悪いのに、どうやってその場まで行く元気があるのか、そんなに動く元気があるのならわざわざ預けない！！。産んだ後というのはガクッと体力が落ちるので、実家に頼れない人は必ず産後何回も動けないくらいの深刻な病気になる。産後うつにもなりやすいし、周りに頼れる人がいないならなおさらだ。1時間でもいいから家に来て子どもの面倒を見てくれた事で救われる事もある。区の方たちの対応の悪さに正直びっくりした。関心がないというか、そういったところから改善しなければよくならないのでは？。この話を保健師さんにしたところ、とても対応よく答えて聞いて下さって、下の人の声は区長にまで届かない、という事も言っていた。もっともっと言いたい事はたくさんある。形だけでなく行動に出してほしい。	
22	目白台2丁目	女	34	主婦	出産予定 2歳	現在第2子を懐妊中。主人、私の両親共に60歳を越えているが仕事を持っているため里帰りもマンパワー不足で意味がない。そこで第1子の保育園入園で対処しようと考えたが、現実には厳しいものだった。区立保育園、認可保育園共に待機の状態、受け入れがない。フルタイムで働く人に比べ、出産は入園条件としての点数も低く、可能性はさらに低いものとなっている。少子化対策は働くママのためのもの？と疑問を抱かずにはいられない。専業主婦でも子どもを育てる、産むことにかわりはない。出産の時期だけでもサポートしてもらえるシステムが欲しいと思う。	保育園は待機児童がいなくなる様、また、出産などの短期の預け入れに対応できるよう、施設の拡充を望む。
						日々成長する子どもとの時間はとても楽しいものだ。しかし、専業主婦は子どもと離れる時間がないのも現実だ。働いていれば通勤電車の中で本が読める。ランチだって一人で食べられる、と仕事の大変さはともかく、うらやましく感じることもさえる。文京区には一時預かりできる施設が少ないと思う。シビックセンターのキッズルームも3時間を上限としているので、家からや目的地からの道のりを入れると1~2時間しか活動できない。場所、預け時間の選択がもっとできるようになると助かる。	幼稚園入園で仕事を持つことを考える主婦も多いが、幼稚園は受け入れ時間が短く、就職は現実的ではない。幼稚園に延長保育を設ける事で、保育園か幼稚園かの選択も広がり、保育園への児童の集中も緩和できるのではないだろうか。
						子どもを遊ばせる場に児童館がある。しかしこの児童館、未就学児は午前中の時間に限られているのがほとんどだ。子育て広場も利用するが、西片は急な坂の上であり、体調によっては行く事すらためられる。幼稚園を開放している所も、お弁当を食べたら解散か、お弁当を食べられる日にも限りがあるものばかり。隣接した千代田区、新宿区、豊島区には、幼児が一日過ごせる施設がある。	都内でも多くの区で医療費の助成を改正している。中学3年生まで医療費のかからない区もあるほどだ。文京区も改正を望む。特に歯は定期健診にかかるお金もバカにならない。大きな意味で医療費削減にもつながるよう、せめて健診費などは無料にして欲しい。

子育てしやすいまち アンケート 自由意見

No.	地域	性別	年齢	職業	子どもの年齢	1. 子育てが大変、つらいと思う時	2. 子育てしやすいまちにするためのアイデア
							町について。子どもを連れて歩いていると、一人で歩いていた時には気付かなかった多くのことに気付かされる。ベビーカーは道路の段差でつまずき、放置自転車にはばまれる。この放置自転車、文京区は本当に放置しすぎだと思ふ。豊島区は池袋、目白駅が全国ワースト1位になったためか、シルバーボランティアの方を中心に連日撤去し、駐輪場を営み、現在は本当にすっきりした町に変わった。文京区もこれに習うべきだと思ふ。
							駅にエレベーターの設置がなく困る場合がある(例:江戸川橋)。このような駅は区で出資してでも設置すべきではないだろうか。子連れと高齢者が利用しやすくなる。
23	音羽1丁目	女	34	会社員(育休中)	0歳 2歳 (保育園)	仕事との両立。自分は家事、育児、仕事、全てをきちんとするのが当然と思われる事。	仕事復帰予定で育休中だが、上の子は保育園に行っている。上の子がいるときは彼が最優先になり下の子はほっておかれることが多かったり、自分の体調が悪い時に保育園は助かっている。生活のメリハリや対人関係を気づく上でも良いと思ふ。
						自分の体調が優れなくても休めない。	小さい子が参加できる集まりなどの情報や公的な場での主催。同じような人達と知り合えれば話もできて立場を共有できる。
						100人いれば100の意見アドバイスがあるので、初めは自分がどれを選ぶかに悩んだ。	
						病院の情報。	
						保育園は夕方まで見てもらえるが、小学校に上がった自分で見守り館へ行くか、高学年になるとそれも終わる。一方会社は概ね「子どもが小学校に上がるまで」は時間減もあるが、小学校に上がるとなくなるので、両立は困難になりそう。	
24	春日2丁目	女	38	主婦	1歳 3歳	下の子を産むとき、臨月近くになり上の子の面倒を見るのが大変で、産前産後預けられる保育サービスを利用しようと思ったが、空きがなく利用できなかった。	上と下が2歳しか離れていないので、2人を連れて遊びに行くことになるが、公的な施設でもトイレの整備がされてなかったり、遊ぶところが限られてしまう。児童館のトイレに補助便座もないのは、おかしいと思う(できればベビーキープもほしい)。
						下の子が小さいときから上の子と2人を連れて遊びに行くところがあまりなく困った。	公園の遊具が比較的小学生、幼稚園児向けのものが多く、小さい子が遊べるものが少ない。
						利用出来るサービスがあっても情報が人から教えられる事が多く、使いたい時にすぐ利用できず大変だった。	ビヨビヨ広場は0~3歳向けなのに狭く、動けるようになってくると遊びに行けない。シビックセンターの中に幼稚園前の子どもが遊べるスペースがあればいいと思う(例えば、空中庭園前のベンチのスペースの隅に室内のおすべりなどの遊具を置くなど)。
							母子手帳をもらう時、妊娠中、産後に使えるサービスについて教えてほしい。
25	水道1丁目	女	36	自営業	1歳	自宅で絵を描く仕事をしている。出産までは体の変化に左右されていたが仕事はできていたのだが、出産してからはほとんどできなくなった。家での仕事なので出産後もできるものだと思っていたが、育児が生活のほとんどとなり、仕事をする時間はほとんど・・・というかほぼできない状態になってしまった。妊娠中に子ども(赤ちゃん)をどうやってお世話するのか、育てていくのか、人から話を聞いたり本を読んだりなど自分なりに情報を集めていたのだが、いざ子どもが産まれて世話を始めてみると、本当に何から何まで自分一人ですらなければならず、想像よりもずっと大変だった。夫も毎日帰りは夜12時近くになるので、日常の中で一緒に子どもの世話をするという状況にはならず、1日のほとんどの時間を子どもと2人で過ごす事になり、初め(出産してすぐ)はそれがとても辛く感じた。子どもは本当にかわいいのだが、辛い気持ちやイライラした気持ちは1日のうち何度かあり、今でもどうしたらいいのか、どうやってストレスを解消したらいいのかを考えている。子どもは悪くないのにイライラして子どもに当たってしまう事もあり、後になって後悔しているが、その時は気持ちを止める事ができない。	妊娠中、出産後に子どもの通える幼稚園や保育園(公立や私立なども含めて)を相談できたり、提案していただいたり、個別に相談してもらえる窓口があると、とても助かると思う。子育てのビジョンを自分なりに家計的にも組み立てたいと思っていたが、上手に情報を得る事ができずにいる。

子育てしやすいまち アンケート 自由意見

No.	地域	性別	年齢	職業	子どもの年齢	1. 子育てが大変、つらいと思う時	2. 子育てしやすいまちにするためのアイデア
						<p>周りの人々からは、落ち着いて育児をしているように言われるが、私自身は全くそのように感じることはない。子どもに対してどう言ったら（褒めたら、叱ったら）いいのか、何を食べさせたらいいのか、ダメなのか、落ち着いて考える時間もないので、その都度できる事をやっているが、正直自信があってやっている事はあまりない。でも子どもは元気に育ってくれているので、寝顔を見てホッとしている。自分のストレスの軽減ということもあり、仕事を少しずつやっていたいと考えているところだ。現在は子どものお昼寝の時に少しずつやっている。また、夫の休日であれば、夫にも子どもと1日遊んでもらい、私の時間にしてもらうよう協力してもらっているが、限界がある。急に依頼があり1～2週間程忙しくなるという感じなので、急な仕事でも一時的に子どもを預ってくれる保育施設を探し始めているのだが、自分に合ったものが見つからない。子どもとして学ぶ事もたくさんあるので、保育園に預けるのではなく自分時間をつくるために（仕事、買物など）サッと対応してくれるような場所をつい探してしまいが、病気や風邪の時でも緊急事態でも予約が必要との事で、子どもを預ける事は少しあきらめているところもあるが、子どもとやっていきたいと思う。</p>	<p>幼稚園の園庭や児童館をよく利用している。大変助かっているのだが、夏休みなどの長期の休みの間や土日は利用できなかったり、児童館は学童保育が始まると、私のような1～2歳児を連れてきた親子は利用できない事がある。「小学生が来る事で幼児は安全に遊べない」という理由で入館を断られる事もある。色々な子どもや親子が安心して長時間利用できる（できれば安価で）施設があると本当に助かる。</p>
							<p>近くの幼稚園や保育園に一時保育の枠があるといいなと、どうしても思ってしまう。</p>
26	本郷2丁目	女	33	主婦	1歳	<p>出産してから3ヶ月健診までが、とにかく大変で全てにおいてつらかった。何もかも初めてな上に体調も良くないので、ノイローゼになった。私は、実家が近かったため、話し相手がいたから乗り越えられた。健診の時に児童館や図書館のイベントを知り参加。そして友人もできて気が楽になった。出産して1ヶ月、できれば、出産直前くらいの方に案内をするようにすると精神的に助けてあげられると思う。私ももっと早く参加したかった。</p>	<p>育児中の人達が集まる場や機会を増やす。他の区よりも児童館でのイベントが少ない気がする。リトミックや触れ合って遊ぶイベントが毎週ある児童館が増えたら嬉しい。びよびよ広場がもう少し広い、または、ねんねの子と走り回れる子が分かれて遊べるスペースを作ってもらえると良いと思う。外遊びを安心してできる場が少なくて、みんな悩んでいる。どこか建物の屋上とかにお庭でもできて、シビックみたいにオートロックがあれば、安全面、衛生面（犬のフンとか）も安心である。</p>
						<p>今でも大変と思うのは、一日中気が抜けないことである。少しでも一人で息抜きしたいと思う時がある。あとは、細かい悩みで（夜泣きや離乳食など）。同じ状況のお母さんなどと話せる場があれば、気が楽になる。</p>	<p>育児の支援を増やしてほしい（これが一番のお願いである）。これは、他のお母さん達とも話題になるが、シビックの一時預かりが使いづらい。預けたい時は、「美容院」「通院」という方が多い。でも「3時間だと足りないから預けられない」と皆さん口をそろえて言っている。「それなら目白に」と思われるかもしれないが、実際、子どもを連れていっただけで大変。仕方なくベビーシッターに頼む方も多い。せめてあと1時間延ばしてほしい。私も2人目を考えるにあたり、通院がすごく心配である。予約制でない所も多いので、あと1時間は、預かっていただけと間に合うと思う。あと3日前からの予約だが、せめて前日（できれば当日）とかにしてもらいたい。子どもは、夜泣きがつきもの。「1時間でも休みたい」ということがよくあるが、3日前からだと使えない。当日または前日なら利用しようと思う。よくびよびよ広場に行くが、いつもキッズルームは空いていてもったいない。「できれば一時預かりと1日預かりとの選択制、無理ならもう少し長く預かってもらいたい。あとは、1回3時間10日ではなく、1ヶ月30時間という規定にするとか。予約は、せめて前日まで受け付けてほしい。」これが、他のお母さん達とも一致する意見である。</p>
						<p>子どもを産む決心については、1人目は仕事の状況で決めた。2人目は、どうしようか悩み中。妊娠すると自分の体調だけでも大変なのに育児も休めないと思うと、なかなか産む決心がつかない。シビックのキッズコーナーがもっと使いやすくなれば、もう少し安心して踏み切れると思う。</p>	
27	白山1丁目	女	31	主婦	1歳	<p>子どもが歩くようになって、家の中にいるより、外に出てお友達と遊ぶことが多くなったのは良いが、やはり、雨が降っていたり、これから冬になり寒くなってくるので、外出が困難。でも、だからと言って一日中家の中にいると泣くので天候によってつらいと思う事がある。</p>	<p>午前中は、児童館や幼稚園など遊ぶところは午後はほとんどなく、あっても3時、4時で終わってしまうので、5時半ぐらいまで遊べる場所がほしい。できれば、体育館ぐらいの広さがあって、滑り台など遊具がある室内があったら良いと思う。晴れていれば公園などに行くので、天気の悪い時、午後からの遊び場が全くないのが今の現状だと思う。</p>

子育てしやすいまち アンケート 自由意見

No.	地域	性別	年齢	職業	子どもの年齢	1. 子育てが大変、つらいと思う時	2. 子育てしやすいまちにするためのアイデア
28	水道1丁目	女	28	主婦	2歳	自分の体調が優れない時。気軽に病院に行くことも出来ない。	公立の3年保育の幼稚園を増やしてほしい。
29	小石川二丁目	女	30	主婦	0歳	自分が風邪をひいたり、具合が悪いときに子供のお世話をする時が一番辛い。	区営のプールを作ってほしい。 子供とお母さんが安心して遊べる公園がほしい。びよびよみたくて登録した人しか入れないようにして、多少お金を払ってもいいと思っている。 本郷保健センターの場所が遠いし不便なので、もう少し便の良いところに移ってほしい。 区役所のキッズルームを少し大きくして、6ヶ月くらいから預かってくれるととてもありがたい。
30	春日1丁目	女	35	主婦	1歳	自分自身が病気のときの育児。	幼稚園の未就園児開放はとても助かっている。公園は人がいないことが多く、安心して遊べる環境ではないこともあり、幼稚園をよく利用している。
						隣近所の理解。 仕事と育児のバランス。	春日の付近では3年保育の幼稚園が少ないと思う。
31	小石川3丁目	女	36	主婦	2歳	家事との両立。	公立幼稚園は2年保育なので近所にあっても3年保育を希望しているので、残念。
						2歳をすぎ昼寝をしない事が多くなり、最低限のこをするのが精一杯だ。もう少し時間があれば、掃除や片付けをしたい。	平日、入園前の子ども達に開放していただいて、楽しく遊ばせてもらっている。
						たまには一人きりになりたいと思うことがある。いざ一人になると子どものことが気になって仕方ない。なんやかんや不平不満を聞いてくれるお友達(母、主人)がいるので、楽しみながら子育てしていると思う。	
32	水道2丁目	女	36	会社員	0歳	現在は育休中なので、子どもと向き合うのは苦ではない。	幼稚園・保育園に通う年代も義務教育にして欲しい。
						心配なのは、仕事復帰後の両立。大変そうだ。保育園等の預けられる施設は空きがないと聞く。もっと枠を増やしてほしい。	医療費を小学6年生まで無料にして欲しい。
						仮に預けられても病気の時は迎えにいかなくてはならないので、病気で預けられる施設が欲しい。	防犯ペルを持ち歩かなくてもいいよう、地域の目が届く社会になるといい。
33	音羽2丁目	女	34	主婦	2歳	私は文京区に越してきたとき、不妊治療をしていた。当時まだ補助金等もなく、経済的にも体力・肉体的にも相当追い詰められていたので、断念をした。その時、自分の心の整理をつけるため、自分自身に言い訳して「こんなに『お受験熱』の高い区で子どもなんかできて苦勞するだけだ」と思っていた。それから1年後くらいに、奇跡的に子どもを授かったが、その心配は今現在も引きずっている。もちろん今はそんな先の話よりもっと身近な問題がある。	現在私もマンション住まいで、居住者、また近隣の方との接点がほとんどない。幼稚園や保育園をもっと地域に開放して人を集めたり、園のボランティア活動などで地域に密着させていくとよいのではないだろうか。
						保育園の問題。私のように出産前はパート勤務だった者は、出産を機に仕事を辞めざるを得ず、復職したくても出来ない状態にある。夫の収入だけでギリギリの生活を送っているのに、区立保育園はいっぱいで、保育料の高い私立の保育園をすすめられる。どこからそのお金を捻出できるというのか。私の周りには区立保育園に入れている方々は、たいがい夫婦とも正社員で収入も高く保障もある。そんな人達ばかりではないと思うが、働きたくても働けないのに“専業主婦は気楽でいい”などと言われたり、区立保育園の待機の順番が後回しにされたりするのはひどいと思う。	子連れで安心して行ける公園(ホームレス対策した)や、商業施設(映画館や子供用品店)、また使いやすい児童館を増やしていただくと、もっと子育てしやすいまちになるのではないだろうか。

子育てしやすいまち アンケート 自由意見

No.	地域	性別	年齢	職業	子どもの年齢	1. 子育てが大変、つらいと思う時	2. 子育てしやすいまちにするためのアイデア
						一時保育の問題。再就職のためにも大学や区の生涯学習講座などに通いたいとき、また2人目3人目を妊娠した時、自分が病気になった時など、一時保育の施設が充実していないと思う。あっても場所が遠い、保育料が高い、規定が厳しいなど、とても預けにくく感じる。次には遊び場のこと。文京区の児童館は古い施設が多く、規定も多くて使いづらいので、私達は新宿区や豊島区の遊びやすい児童館をよく利用している。子どもがハイハイ～ヨチヨチ歩きくらいの頃は、公園にも行けず、曜日や時間を決められている児童館しか行けず、とても不自由だった。今でも夏休みなど大きい子どもたちが多き時期は、暗に“幼児は来ないで欲しい”という意味のポスターが貼られ、遊び場所に困る。	
34	本駒込3丁目	女	38	主婦	1歳 3歳 6歳 (幼稚園)	医療費の事。せめて小学生までは無料化して欲しいと思う。 第1子の幼稚園へのお迎え(14時)のとき、第2子と3子は昼寝の時間で、(ほぼ毎日)誰もいなくなる家に寝ている2人を置いて、ダッシュで往復するのが大変。そして第1子が友達のうちに遊びにいくと約束している日など、泣きたくなる。寝ていた2人が戻る前に起きて泣いていたこともしばしばあり、トラウマにならないか心配している。	地方のように、14時降園という中途半端な時間ではなく、16時～17時まで預って欲しい。
						風邪等、1人が体調が悪いと、まだ小さいので一日中私(母)にへばりつき、何もできないし、他の2人のこともあり、大変だ。	地域センターの職員の方には申し訳ないが、一日中暇そうにしている方がいるのなら(そう見える)、一時預かり的なことをしてもらえるとありがたい。
						まだ小さいうちは、粉ミルク、紙パンツ、紙おむつ等、かさばる物、重い物が2人分一緒に必要であり、買物も大変だし、金額も一気に高額出費で大変。 子育てはなるべく若いうちにと、今3人いてつくづく体力的(自分の)に感じている。	過日、突然送られてきた子育てアシスト文京おかいもの券、とても助かった。今後も定期的に(年に何回か)に続けて欲しい。
35	千駄木3丁目	女	36	求職中	1歳	夜泣き、泣き止まない時、子どもと二人っきりで誰とも話さない日がある時	児童館や図書館以外にも親子で集える場があるといい。土曜日の過ごし方に結構困っていたりする。 保育園の待機児童を減らしてほしい。病児保育のできる保育園を増やしてほしい。
36	音羽1丁目	女	31	無職	0歳	子ども、もしくは自分が病気になった時。	妊婦検診に保険がきくようになってほしい。
37	小日向3丁目	女	33	会社員	0歳	出産後の産じょく時期のサポート(親の助けが求められない環境だったため)を手配するのが大変だった。出産後の大きな不安の1つだった。核家族化が進んでいるため、私のような環境の人は、たくさんいる。夫婦2人で産じょく期を乗り越えるのは、大変なことなので、福祉サービスや区の行政サービスを行って欲しい。もちろん有料でOK。	保育園の受入数及び延長枠を増やしてほしい。 児童館に乳幼児の部屋を設置して欲しい。現在児童館には、乳幼児を遊ばせる清潔で安全な部屋はなく、AMのみ使用となっているため、利用できない。AMは、家事等で外出できず、結局遠くにあるピョピョ広場まで通っている。あるいは、小学校などの空教室を利用するなど。
						辛いことは、1人で子育てすることだと思う。核家族で夫の帰りが遅いと子どもとずーっと2人きりで、何から何まで1人でしなければならぬのが大変。家族の協力は大事。昼間は、ピョピョ広場などへ行き、2人きりの時間を減らし、気分転換をするようにしている。本当は、近所の児童館で過ごしたいが、乳幼児が遊べる安全な場所はほとんどなく、午前のみ使用とされているため、乳幼児の児童館難民がたくさんいる。	ふみちゃんのおうちは、3時間→4時間利用できるように変更して欲しい。3時間では、髪の毛を切りにも行けない。
						保育園に入れるか不安。	公立保育園でも土曜日預かりを行って欲しい(有料でもよいので)。現在は、土曜日勤務の方などの利用のみになっている。
							同じく延長保育も、事前契約者以外も臨時的に利用できるようになるといい。
							ピョピョ広場はとてもよいので、各地域に同じような施設が出来るとうい。

子育てしやすいまち アンケート 自由意見

No.	地域	性別	年齢	職業	子どもの年齢	1. 子育てが大変、つらいと思う時	2. 子育てしやすいまちにするためのアイデア
38	目白台1丁目	女	28	主婦	2歳	自分が病気の時、また引越しの時などに誰か1~2Hでもいいから、子どもを見ていてほしいと思っても気軽に預けることが出来ない時。 自由な一人の時間がまったくない。	子どもを気軽に預けられる場所の設置（例えば、全ての保育園で一時預かりをするなど）。
						子どもが安全に遊べる場所を探すのが大変。	公園が雑草が生えっぱなしになっていたり、ホームレスがいたりして、安全に遊ばせられない。遊具の数も少なすぎる。公園の数は多いのに、安心して遊べる所が少ない。
39	大塚5丁目	女	28	会社員	0歳	近くに頼れる人がいなくて、ちょっと面倒を見てもらって用事をすませたり、ということが困難な時。 子どもとずっとふたりきりで家に閉じこもらざるをえない時（天気が悪くてお散歩に出られない。遊びに行ける場所がない）。 子連れの外出。子どもがさわいだときに白い目で見られるときなど。外食にも行きづらい。 社会からとりのこされていると感じる時。 子どもの成長が遅いのではないか、どこか悪いのではないかと、不安な時。	子どもを預けるのに料金が高い。3時間で2,500円もかかると気軽に預けるのは、無理だと思う。